

「森林整備保全事業標準歩掛の制定について」（平成 11 年 4 月 1 日付け 11 林野計第 133 号林野庁長官通知）
一部改正新旧対照表 正誤表（令和 7 年 6 月 2 日付け）

森林整備保全事業標準歩掛の留意事項

	改 正 後	現 行
誤	森林整備保全事業標準歩掛の留意事項 1 ～ 6 （略） 7 地理的条件により、<u>施工箇所の最寄りの</u>市町村役場から現場事務所等の労働時間の開始地点となる労働者の集散場所までの往復に相当の時間を要する場合は、その時間に対応して歩掛を補正することができる。なお、通勤の起点は、地域の実情に応じて設定することができる。 8 ～10 （略）	森林整備保全事業標準歩掛の留意事項 1 ～ 6 （略） 7 地理的条件により、<u>地元市町村役場（支所等を含む。）</u>から現場事務所等の労働時間の開始地点となる労働者の集散場所までの往復に相当の時間を要する場合は、その時間に対応して歩掛を補正することができる。なお、通勤の起点は、地域の実情に応じて設定することができる。 8 ～10 （略）

	改 正 後	現 行
正	森林整備保全事業標準歩掛の留意事項 1 ～ 6 （略） 7 地理的条件により、<u>施工箇所と同一県内における最寄りの</u>市町村役場から現場事務所等の労働時間の開始地点となる労働者の集散場所までの往復に相当の時間を要する場合は、その時間に対応して歩掛を補正することができる。なお、通勤の起点は、地域の実情に応じて設定することができる。 8 ～10 （略）	森林整備保全事業標準歩掛の留意事項 1 ～ 6 （略） 7 地理的条件により、<u>地元市町村役場（支所等を含む。）</u>から現場事務所等の労働時間の開始地点となる労働者の集散場所までの往復に相当の時間を要する場合は、その時間に対応して歩掛を補正することができる。なお、通勤の起点は、地域の実情に応じて設定することができる。 8 ～10 （略）

誤

改 正 後					
4 機種の選定 各掘削法による機械・規格は、次表を標準とする。					
表 4. 1 機種の選定					
掘削法	機械名	規格	単位	数量	摘 要
リッパ掘削	リッパ装置付ブルドーザ	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 18 t 級	台	1	
大型ブレーカ掘削・ <u>床掘</u>	大型ブレーカ	油圧式 1, 300 kg級	〃	1	
		<u>油圧式 600～800 kg級</u>	<u>〃</u>	<u>1</u>	
人力併用機械掘削	コンクリートブレーカ	20kg 級	〃	4	
	大型ブレーカ	油圧式 1, 300 kg級	〃	1	
火薬併用機械掘削	レッグドリル (空圧式)	質量 30 kg級	〃	2	
	大型ブレーカ	油圧式 1, 300 kg級	〃	1	
大型ブレーカ転石破碎	大型ブレーカ	油圧式 1, 300 kg級	〃	1	
(注) 大型ブレーカのベースマシンは、 <u>1, 300kg 級についてはバックホウ (超低騒音型・排出ガス対策型 (第 3 次基準値) ・クローラ型山積 0.8 m³ (平積 0.6 m³)) とし、600～800kg 級についてはバックホウ (後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型 (2014 年規制) ・クローラ型山積 0.45 m³ (平積 0.35 m³))</u> とする。					

現 行					
4 機種の選定 各掘削法による機械・規格は、次表を標準とする。					
表 4. 1 機種の選定					
掘削法	機械名	掘削法説明	単位	数量	摘 要
リッパ掘削	リッパ装置付ブルドーザ	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 18 t 級	台	1	
大型ブレーカ掘削・ <u>床堀</u>	大型ブレーカ	油圧式 1, 300 kg級	〃	1	
人力併用機械掘削	コンクリートブレーカ	20kg 級	〃	4	
	大型ブレーカ	油圧式 1, 300 kg級	〃	1	
火薬併用機械掘削	レッグドリル (空圧式)	質量 30 kg級	〃	2	
	大型ブレーカ	油圧式 1, 300 kg級	〃	1	
大型ブレーカ転石破碎	大型ブレーカ	油圧式 1, 300 kg級	〃	1	
(注) 大型ブレーカのベースマシンは、バックホウ (超低騒音型・排出ガス対策型 (第 3 次基準値) ・クローラ型山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³)) とする。					

正

改 正 後

4 機種の選定
各掘削法による機械・規格は、次表を標準とする。

表 4. 1 機種の選定

掘削法	機械名	規格	単位	数量	摘 要
リッパ掘削	リッパ装置付ブルドーザ	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 18 t 級	台	1	
大型ブレーカ掘削・ <u>床掘</u>	大型ブレーカ	油圧式 1, 300 kg級 <u>油圧式 600～800 kg級</u>	〃 <u>〃</u>	1 <u>1</u>	
	コンクリートブレーカ	20kg 級	〃	4	
人力併用機械掘削	大型ブレーカ	油圧式 1, 300 kg級 <u>油圧式 600～800 kg級</u>	〃 <u>〃</u>	1 <u>1</u>	
	レッグドリル (空圧式)	質量 30 kg級	〃	2	
火薬併用機械掘削	大型ブレーカ	油圧式 1, 300 kg級	〃	1	
	大型ブレーカ	油圧式 1, 300 kg級	〃	1	

(注) 大型ブレーカのベースマシンは、1, 300kg 級についてはバックホウ (超低騒音型・排出ガス対策型 (第 3 次基準値)・クローラ型山積 0.8 m³ (平積 0.6 m³)) とし、600～800kg 級についてはバックホウ (後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型 (2014 年規制)・クローラ型山積 0.45 m³ (平積 0.35 m³))とする。

現 行

4 機種の選定
各掘削法による機械・規格は、次表を標準とする。

表 4. 1 機種の選定

掘削法	機械名	掘削法説明	単位	数量	摘 要
リッパ掘削	リッパ装置付ブルドーザ	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 18 t 級	台	1	
大型ブレーカ掘削・床堀	大型ブレーカ	油圧式 1, 300 kg級	〃	1	
人力併用機械掘削	コンクリートブレーカ	20kg 級	〃	4	
	大型ブレーカ	油圧式 1, 300 kg級	〃	1	
火薬併用機械掘削	レッグドリル (空圧式)	質量 30 kg級	〃	2	
	大型ブレーカ	油圧式 1, 300 kg級	〃	1	
大型ブレーカ転石破碎	大型ブレーカ	油圧式 1, 300 kg級	〃	1	

(注) 大型ブレーカのベースマシンは、バックホウ (超低騒音型・排出ガス対策型 (第 3 次基準値)・クローラ型山積 0.8 m³ (平積 0.6 m³)) とする。

	改 正 後	現 行				
誤	<u>2) 日当り施工量</u> <u>コンクリート殻積込の日当り施工量は、次表を標準とする。</u>	(新設)				
	表4. 6. <u>日当り施工量</u>					
	<table><tr><td><u>作業種別</u></td><td><u>単位</u></td><td><u>数量</u></td></tr><tr><td><u>人力積込み</u></td><td><u>人</u></td><td><u>7.7</u></td></tr></table>		<u>作業種別</u>	<u>単位</u>	<u>数量</u>	<u>人力積込み</u>
<u>作業種別</u>	<u>単位</u>	<u>数量</u>				
<u>人力積込み</u>	<u>人</u>	<u>7.7</u>				

	改 正 後	現 行				
正	<u>2) 日当り施工量</u> <u>コンクリート殻積込の日当り施工量は、次表を標準とする。</u>	(新設)				
	表4. 6. <u>日当り施工量</u>					
	<table><tr><td><u>作業種別</u></td><td><u>単位</u></td><td><u>数量</u></td></tr><tr><td><u>人力積込み</u></td><td><u>m3</u></td><td><u>7.7</u></td></tr></table>		<u>作業種別</u>	<u>単位</u>	<u>数量</u>	<u>人力積込み</u>
<u>作業種別</u>	<u>単位</u>	<u>数量</u>				
<u>人力積込み</u>	<u>m3</u>	<u>7.7</u>				

	改正後	現行
誤	8－4－1 （略）	8－4－1 （略）

正

改正後

8－4－1 水替工
(1)・(2) (略)
(3) 排水方法の選定
1) 排水方法
排水方法は、作業時排水又は常時排水とする。
ア 作業時排水とは、作業前から排水し始めて作業終了後には排水を中止する方法をいう。なお、作業時排水には、コンクリート打設前後の型枠組立養生などのための一時的に昼夜排水するものも含む。**ポンプ稼働時間は8時間を標準とする。**
イ 常時排水とは、昼夜連続的に排水する方法をいう。**ポンプ稼働時間は24時間を標準とする。**

2) 機種の選定
機械・規格は、次表を標準とする。

機種の選定（ポンプ運転）

機械名	規格	単位	数量					摘要		
			排水量（m3／h）							
			0 以上 120 未満	120 以上 450 未満	450 以上 1,200 未満	1,200 以上 1,600 未満	1,600 以上 1,800 未満			
工事中 水中 ポンプ 全揚程 10m	普通型（潜水ポンプ） 口径 150mm	台	－	1	－	1	－			
	普通型（潜水ポンプ） 口径 200mm	〃	1	2	5	－	－			
	普通型（潜水ポンプ） 口径 250mm	〃	－	－	－	4	5			
工事中 水中 ポンプ 全揚程 15m	普通型（潜水ポンプ） 口径 150mm	〃	－	1	－	－	－			
	普通型（潜水ポンプ） 口径 200mm	〃	1	2	－	－	－			
発動 発電機 全揚程 10m	排出ガス対策型（第3次基準値） ディーゼルエンジン駆動（超低騒音型）	45kVA	〃	1	－	－	－	－		
		75kVA	〃	－	1	－	－	－	－	
		125kVA	〃	－	－	1	－	－	－	
		200kVA	〃	－	－	－	1	－	－	
		250kVA	〃	－	－	－	－	1	－	
発動 発電機 全揚程 15m		60kVA	〃	1	－	－	－	－		
		125kVA	〃	－	1	－	－	－		

備考 1・2 (略)
3 工事中水中ポンプ及び発動発電機は、賃料を標準とする。**なお、口径 250mm の工事中ポンプについては賃料とする。**
4・5 (略)
6 排水量、全揚程により機種の設定を行うものとする。

(4) ポンプ運転歩掛
1) (略)

2) 運転歩掛
(略)
ポンプ運転歩掛
表 (略)

現行

8－4－1 水替工
(1)・(2) (略)
(3) 排水方法の選定
1) 排水方法
排水方法は、作業時排水又は常時排水とする。
ア 作業時排水とは、作業前**（1～3時間）**から排水し始めて作業終了後には排水を中止する方法をいう。なお、作業時排水には、コンクリート打設前後の型枠組立養生などのための一時的に昼夜排水するものも含む。
イ 常時排水とは、昼夜連続的に排水する方法をいう。

2) 機種の選定
機械・規格は、次表を標準とする。

機種の選定（ポンプ運転）

機械名	規格	単位	数量					摘要	
			排水量（m3／h）						
			0 以上 40 未満	40 以上 120 未満	120 以上 450 未満	450 以上 1,300 未満	(新設)		
工事中 水中 ポンプ	普通型（潜水ポンプ） 口径 150mm 全揚程 15m以下	台	1	－	1	－	(新設)		
	普通型（潜水ポンプ） 口径 200mm 全揚程 15m以下	〃	－	1	2	5	(新設)		
	(新設)	(新設)	(新設)	(新設)	(新設)	(新設)	(新設)		
(新設)	(新設)	(新設)	(新設)	(新設)	(新設)	(新設)	(新設)		
	(新設)	(新設)	(新設)	(新設)	(新設)	(新設)	(新設)		
発動 発電機	排出ガス対策型 (第2次基準値) ディーゼルエンジン駆動	25kVA	〃	1	－	－	－	(新設)	
		35kVA	〃	－	1	－	－	(新設)	
		60kVA	〃	－	－	1	－	(新設)	
		100kVA	〃	－	－	－	1	(新設)	
		(新設)	(新設)	(新設)	(新設)	(新設)	(新設)	(新設)	
(新設)		(新設)	(新設)	(新設)	(新設)	(新設)	(新設)	(新設)	
		(新設)	(新設)	(新設)	(新設)	(新設)	(新設)	(新設)	

備考 1・2 (略)
3 工事中水中ポンプ及び発動発電機は、賃料を標準とする。

4・5 (略)
(新設)

(4) ポンプ運転歩掛
1) (略)

2) 運転歩掛
(略)
ポンプ運転歩掛
表 (略)

備考 (削る。)
(削る。)
1・2 (略)

3) 諸雑費
諸雑費は、ポンプの配管材料の損料、分電盤の賃料等の費用であり、労務費、機械経費及び運転経費の合計額に下表の率を乗じた金額を上限として計上する。

諸雑费率 (%)		
排水方法	作業時排水	常時排水
諸雑费率	5	3

(5) ポンプの据付・撤去
ポンプの据付・撤去に要する1箇所当たりの歩掛は、次表とする。

(1箇所当たり)			
名称	規格	単位	数量
世話役		人	0.5
特殊作業員		〃	0.1
山林砂防工 (普通作業員)		〃	2.0
バックホウ運転	超低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制)・クローラ型クレーン機能付 山積0.8m3 (平積0.6 m3)2.9 t 吊	日	0.5

備考 1～5 (略)
6 釜場掘削が必要な場合は別途計上する。

(6) 単価表
1) (略)
2) ポンプ運転1日当たり単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人		(4)－2)
工事用水中ポンプ運転	普通型(潜水ポンプ)	日	1	(3)－2)
発動発電機運転	ディーゼルエンジン駆動・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)	〃	1	〃
諸雑費		式	1	(4)－3)
計				

3) ポンプ据付・撤去1箇所当たり単価表				
名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		(5)
特殊作業員		〃		〃
山林砂防工 (普通作業員)		〃		〃
バックホウ運転	超低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制)・クローラ型クレーン機能付 山積0.8m3 (平積0.6 m3)2.9 t 吊	日		〃
諸雑費		式	1	
計				

備考 1 歩掛は、運転日当たり運転時間が作業時排水8 h、常時排水 24 hを標準としたものである。
2 労務単価は、時間外手当等を考慮しない。
3・4 (略)

3) 諸雑費
諸雑費は、ポンプの配管材料の損料、分電盤の賃料等の費用であり、労務費、賃料及び運転経費の合計額に下表の率を乗じた金額を上限として計上する。

諸雑费率 (%)		
排水方法	作業時排水	常時排水
諸雑费率	3	1

(5) ポンプの据付・撤去
ポンプの据付・撤去に要する1箇所当たりの歩掛は、次表とする。

(1箇所当たり)			
名称	規格	単位	数量
世話役		人	0.5
特殊作業員		〃	0.1
山林砂防工 (普通作業員)		〃	2.0
バックホウ運転	排出ガス対策型(第2次基準値)・クローラ型クレーン機能付 山積0.8m3 (平積0.6 m3)2.9 t 吊	日	0.5

備考 1～5 (略)
(新設)

(6) 単価表
1) (略)
2) ポンプ運転1日当たり単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人		(4)－2)
工事用水中ポンプ運転	普通型(潜水ポンプ)	日	1	(3)－2)
発動発電機運転	ディーゼルエンジン駆動・排出ガス対策型(第2次基準値)	〃	1	〃
諸雑費		式	1	(4)－3)
計				

3) ポンプ据付・撤去1箇所当たり単価表				
名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		(5)
特殊作業員		〃		〃
山林砂防工 (普通作業員)		〃		〃
バックホウ運転	排出ガス対策型(第2次基準値)・クローラ型クレーン機能付 山積0.8m3 (平積0.6 m3)2.9 t 吊	日		〃
諸雑費		式	1	
計				

4) 機械運転単価表				4) 機械運転単価表			
機械名	規格	摘要単価表	指定事項	機械名	規格	摘要単価表	指定事項
工事用 水中ポンプ	普通型（潜水ポンプ） 口径 150mm、全揚程 10m及び 口径 200mm、全揚程 10m 又は 口径 150mm、全揚程 15m及び 口径 200mm、全揚程 15m	機－30	賃料数量→ （常時排水） 1.1 （作業時排水） 1.2	工事用 水中ポンプ	（新設）	機－30	賃料数量→ （常時排水） 1.1 （作業時排水） 1.2
	普通型（潜水ポンプ） 口径 250mm、全揚程 10m	機－25	損料数量→ （常時排水） 1.1 （作業時排水） 1.2		（新設）	（新設）	（新設）
発動発電機	排出ガス対策型（第3次基準値） ディーゼルエンジン駆動（超低騒音型） 45kVA 60kVA 75kVA 125kVA 200kVA 250kVA	機－16	（常時排水） 燃料消費量→45kVA→137 60kVA→168 75kVA→204 125kVA→336 200kVA→600 250kVA→744 賃料数量→1.1	発動発電機	排出ガス対策型（第2次基準値） ディーゼルエンジン駆動 25KVA 35kVA 60kVA 100kVA （新設） （新設）	機－16	（常時排水） 燃料消費量→25kVA→67 35kVA→98 60kVA→168 100kVA→264 （新設） （新設） 賃料数量→1.1
発動発電機	排出ガス対策型（第3次基準値） ディーゼルエンジン駆動（超低騒音型） 45kVA 60kVA 75kVA 125kVA 200kVA 250kVA	機－16	（作業時排水） 燃料消費量→45kVA→46 60kVA→56 75kVA→68 125kVA→112 200kVA→200 250kVA→248 賃料数量→1.2	発動発電機	排出ガス対策型（第2次基準値） ディーゼルエンジン駆動 25kVA 35kVA 60kVA 100kVA （新設） （新設）	機－16	（作業時排水） 燃料消費量→25kVA→22 35kVA→33 60kVA→56 100kVA→88 （新設） （新設） 賃料数量→1.2
バックホウ	超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）・クローラ型クレーン機能付 山積 0.8m3 (平積 0.6 m3)2.9 t 吊	機－28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→45 賃料数量→1.47	バックホウ	排出ガス対策型（第2次基準値）・ クローラ型クレーン機能付 山積 0.8m3 (平積 0.6 m3)2.9 t 吊	機－28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→65 賃料数量→1.16

	改正後	現 行
誤	8－4－2 （略）	8－4－2 （略）

	改正後	現 行																																																										
正	8－4－2 水替工（小口径） （1） （略） （2） 施工概要 施工フローは、下記を標準とする。 機材搬入 ポンプ据付 ポンプ運転管理 ポンプ撤去 機材搬出 （3） 排水方法の選定 1） （略） 2） ポンプの機種、使用台数及び発動発電機の選定 排水量に対するポンプの機種、規格、使用台数及び発動発電機の規格は、下表を標準とする。 ポンプの使用台数及び発動発電機の規格 <table><tr><td>排水量（m3／h）</td><td>口径（mm）×台数（台）</td><td>発動発電機容量（kVA）</td></tr><tr><td>0 以上 7 未満</td><td>50×1</td><td>2</td></tr><tr><td>7 〃 30 〃</td><td>100×1</td><td>15</td></tr></table> 備考 1・2 （略） ポンプの選定 （略） （4）ポンプ運転管理歩掛 1） （略） 2） 運転歩掛 ポンプの運転管理歩掛は、排水現場1箇所当たり、次表を標準とする。 ポンプ運転管理歩掛 （人／箇所・日） <table><tr><th rowspan="2">名称</th><th colspan="2">排水方法</th></tr><tr><th>作業時排水</th><th>常時排水</th></tr><tr><td>（削る。）</td><td>（削る。）</td><td>（削る。）</td></tr><tr><td>世話役</td><td>0.04</td><td>0.04</td></tr><tr><td>普通作業員</td><td>0.05</td><td>0.05</td></tr></table> 備考 1～4 （略） 3） 諸雑費 諸雑費は、ポンプの配管材料の損料、水中ポンプの賃料等の費用であり、労務費、機械賃料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。 諸雑费率 （％） <table><tr><td>排水方法</td><td>作業時排水</td><td>常時排水</td></tr><tr><td>諸雑费率</td><td>8</td><td>5</td></tr></table>	排水量（m3／h）	口径（mm）×台数（台）	発動発電機容量（kVA）	0 以上 7 未満	50×1	2	7 〃 30 〃	100×1	15	名称	排水方法		作業時排水	常時排水	（削る。）	（削る。）	（削る。）	世話役	0.04	0.04	普通作業員	0.05	0.05	排水方法	作業時排水	常時排水	諸雑费率	8	5	8－4－2 水替工（小口径） （1） （略） （2） 施工概要 施工フローは、下記を標準とする。 機材搬入 ポンプ据付 ポンプ運転 ポンプ撤去 機材搬出 （3） 排水方法の選定 1） （略） 2） ポンプの機種、使用台数及び発動発電機の選定 排水量に対するポンプの機種、規格、使用台数及び発動発電機の規格は、下表を標準とする。 ポンプの使用台数及び発動発電機の規格 <table><tr><td>排水量（m3／h）</td><td>口径（mm）×台数（台）</td><td>発動発電機容量（kVA）</td></tr><tr><td>0 以上 6 未満</td><td>50×1</td><td>2</td></tr><tr><td>6 〃 30 〃</td><td>100×1</td><td>5</td></tr></table> 備考 1・2 （略） ポンプの選定 （略） （4）ポンプ運転歩掛 1） （略） 2） 運転歩掛 ポンプの運転歩掛は、排水現場1箇所当たり、次表を標準とする。 ポンプ運転歩掛 （人／箇所・日） <table><tr><th rowspan="2">名称</th><th colspan="2">排水方法</th></tr><tr><th>作業時排水</th><th>常時排水</th></tr><tr><td>特殊作業員</td><td>0.14</td><td>0.17</td></tr><tr><td>（新設）</td><td>（新設）</td><td>（新設）</td></tr><tr><td>（新設）</td><td>（新設）</td><td>（新設）</td></tr></table> 備考 1～4 （略） 3） 諸雑費 諸雑費は、ポンプの配管材料の損料、水中ポンプの賃料等の費用であり、労務費、機械賃料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。 諸雑费率 （％） <table><tr><td>排水方法</td><td>作業時排水</td><td>常時排水</td></tr><tr><td>諸雑费率</td><td>10</td><td>8</td></tr></table>	排水量（m3／h）	口径（mm）×台数（台）	発動発電機容量（kVA）	0 以上 6 未満	50×1	2	6 〃 30 〃	100×1	5	名称	排水方法		作業時排水	常時排水	特殊作業員	0.14	0.17	（新設）	（新設）	（新設）	（新設）	（新設）	（新設）	排水方法	作業時排水	常時排水	諸雑费率	10	8
排水量（m3／h）	口径（mm）×台数（台）	発動発電機容量（kVA）																																																										
0 以上 7 未満	50×1	2																																																										
7 〃 30 〃	100×1	15																																																										
名称	排水方法																																																											
	作業時排水	常時排水																																																										
（削る。）	（削る。）	（削る。）																																																										
世話役	0.04	0.04																																																										
普通作業員	0.05	0.05																																																										
排水方法	作業時排水	常時排水																																																										
諸雑费率	8	5																																																										
排水量（m3／h）	口径（mm）×台数（台）	発動発電機容量（kVA）																																																										
0 以上 6 未満	50×1	2																																																										
6 〃 30 〃	100×1	5																																																										
名称	排水方法																																																											
	作業時排水	常時排水																																																										
特殊作業員	0.14	0.17																																																										
（新設）	（新設）	（新設）																																																										
（新設）	（新設）	（新設）																																																										
排水方法	作業時排水	常時排水																																																										
諸雑费率	10	8																																																										

	(5) ポンプの据付・撤去歩掛 ポンプの据付・撤去に要する1箇所当たりの歩掛は、次表を標準とする。 据付・撤去歩掛				(1箇所当たり)
	名称	規格	単位	ポンプ口径	
				50mm	100mm
	世話役		人	0.23	0.32
	山林砂防工 (普通作業員)		〃	0.43	1.04
	バックホウ運転	排出ガス対策型(第2次基準値)・クローラ型クレーン機能付 山積0.8m3 (平積0.6m3)2.9t吊	日	—	0.24
	備考 1～5 (略)				
	(6) 単価表				
	1) (略)				
	2) ポンプ1日当たり単価表				
名称		規格	単位	数量	摘要
(削る。)			(削る。)		(削る。)
世話役			人		(4)－2)
普通作業員			人		(4)－2)
発動発電機運転			日	1	(3)－2)
諸雑費			式	1	(4)－3)
計					
3) (略)					
4) 機械運転単価表					
機械名	規格	適用単価表	指定事項		
発動発電機	ガソリンエンジン駆動 2kVA	機－16	燃料消費量→27.9(常時排水) 9.3(作業時排水) 賃料数量→1.08		
発動発電機	ディーゼルエンジン駆動 15kVA 排出ガス対策型(第3次基準値)	機－16	燃料消費量→41.3(常時排水) 13.8(作業時排水) 賃料数量→1.55		
バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値)・クローラ型 クレーン機能付山積0.8m3 (平積0.6m3)2.9t吊	機－28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→121 機械賃料数量→1.09		
	(5) ポンプの据付・撤去歩掛 ポンプの据付・撤去に要する1箇所当たりの歩掛は、次表を標準とする。 据付・撤去歩掛				(1箇所当たり)
	名称	規格	単位	ポンプ口径	
				50mm	100mm
	世話役		人	0.3	0.5
	山林砂防工 (普通作業員)		〃	0.5	1.0
	バックホウ運転	排出ガス対策型(第2次基準値)・クローラ型クレーン機能付 山積0.8m3 (平積0.6m3)2.9t吊	日	—	0.5
	備考 1～5 (略)				
	(6) 単価表				
	1) (略)				
	2) ポンプ1日当たり単価表				
名称		規格	単位	数量	摘要
特殊作業員			人		(4)－2)
(新設)			(新設)		(新設)
(新設)			(新設)		(新設)
発動発電機運転			日	1	(3)－2)
諸雑費			式	1	(4)－3)
計					
3) (略)					
4) 機械運転単価表					
機械名	規格	適用単価表	指定事項		
発動発電機	ガソリンエンジン駆動 2kVA	機－16	燃料消費量→28(常時排水) 8.9(作業時排水) 賃料数量→1.1		
発動発電機	ディーゼルエンジン駆動 5kVA	機－16	燃料消費量→20(常時排水) 6.7(作業時排水) 賃料数量→1.1		
バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値)・クローラ型 クレーン機能付山積0.8m3 (平積0.6m3)2.9t吊	機－28	運転労務数量→0.68 燃料消費量→40 機械賃料数量→1.00		

第1編 共通工 第8 仮設工
8－8 仮囲い設置・撤去工
8－8－1 仮囲い設置・撤去工

	改正後	現行
誤	8－8－1 (略)	8－8－1 (略)

正

改正後

8－8－1 仮囲い設置・撤去工
(1)～(5) (略)
(6) 仮設材損料
仮囲い設置・撤去工に使用する仮設材損料（供用日当たり損料）は、次表を標準とする。

仮囲い10m当たり仮設材損料

名称	単位	損料（円）	適用
仮囲い仮設材損料	供用日	247	仮囲い鉄丸パイプ

(略)

現行

8－8－1 仮囲い設置・撤去工
(1)～(5) (略)
(6) 仮設材損料
仮囲い設置・撤去工に使用する仮設材損料（供用日当たり損料）は、次表を標準とする。

仮囲い10m当たり仮設材損料

名称	単位	損料（円）	適用
仮囲い仮設材損料	供用日	244	仮囲い鉄丸パイプ

(略)

第1編 共通工 第8 仮設工
8－9 大型土のう工
(4) 施工歩掛 3) 諸雑費

	改 正 後	現 行																
誤	3) 諸雑費 諸雑費は、 <u>製作・設置、製作の作業に必要な製作枠の損料、スコップ、ワイヤーロープ等の費用、設置（再設置含む）、撤去、撤去（再利用）、移設（撤去・再設置）の作業に必要なワイヤーロープ等</u> の費用であり、 <u>製作の</u> 労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。	3) 諸雑費 諸雑費は、 <u>製作枠等</u> の費用であり、 <u>製作の</u> 労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。																
	諸雑費率 (%) <table><tr><td>作業種別</td><td>諸雑費率</td></tr><tr><td>製作・設置</td><td>1 (2)</td></tr><tr><td>製 作</td><td>2</td></tr><tr><td>設置（再設置含む）</td><td>0.2 (0.2)</td></tr><tr><td>撤 去</td><td>0.4 (0.4)</td></tr><tr><td>撤去（再利用）</td><td>0.5 (0.5)</td></tr><tr><td>移設（撤去・再設置）</td><td>0.2 (0.2)</td></tr></table> <u>備考</u> <u>ラフテレーンクレーンを使用する場合は、（ ）書きを使用する。</u>	作業種別	諸雑費率	製作・設置	1 (2)	製 作	2	設置（再設置含む）	0.2 (0.2)	撤 去	0.4 (0.4)	撤去（再利用）	0.5 (0.5)	移設（撤去・再設置）	0.2 (0.2)	諸雑費率 (%) <table><tr><td>諸雑費率</td><td>7</td></tr></table> (新設)	諸雑費率	7
	作業種別	諸雑費率																
	製作・設置	1 (2)																
	製 作	2																
設置（再設置含む）	0.2 (0.2)																	
撤 去	0.4 (0.4)																	
撤去（再利用）	0.5 (0.5)																	
移設（撤去・再設置）	0.2 (0.2)																	
諸雑費率	7																	

	改 正 後	現 行																
正	3) 諸雑費 諸雑費は、 <u>製作・設置、製作の作業に必要な製作枠の損料、スコップ、ワイヤーロープ等の費用、設置（再設置含む）、撤去、撤去（再利用）、移設（撤去・再設置）の作業に必要なワイヤーロープ等</u> の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。	3) 諸雑費 諸雑費は、 <u>製作枠等</u> の費用であり、 <u>製作の</u> 労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。																
	諸雑費率 (%) <table><tr><td><u>作業種別</u></td><td><u>諸雑費率</u></td></tr><tr><td><u>製作・設置</u></td><td><u>1 (2)</u></td></tr><tr><td><u>製 作</u></td><td><u>2</u></td></tr><tr><td><u>設置（再設置含む）</u></td><td><u>0.2 (0.2)</u></td></tr><tr><td><u>撤 去</u></td><td><u>0.4 (0.4)</u></td></tr><tr><td><u>撤去（再利用）</u></td><td><u>0.5 (0.5)</u></td></tr><tr><td><u>移設（撤去・再設置）</u></td><td><u>0.2 (0.2)</u></td></tr></table> <u>備考</u> <u>ラフテレーンクレーンを使用する場合は、（ ）書きを使用する。</u>	<u>作業種別</u>	<u>諸雑費率</u>	<u>製作・設置</u>	<u>1 (2)</u>	<u>製 作</u>	<u>2</u>	<u>設置（再設置含む）</u>	<u>0.2 (0.2)</u>	<u>撤 去</u>	<u>0.4 (0.4)</u>	<u>撤去（再利用）</u>	<u>0.5 (0.5)</u>	<u>移設（撤去・再設置）</u>	<u>0.2 (0.2)</u>	諸雑費率 (%) <table><tr><td><u>諸雑費率</u></td><td><u>7</u></td></tr></table>	<u>諸雑費率</u>	<u>7</u>
	<u>作業種別</u>	<u>諸雑費率</u>																
	<u>製作・設置</u>	<u>1 (2)</u>																
<u>製 作</u>	<u>2</u>																	
<u>設置（再設置含む）</u>	<u>0.2 (0.2)</u>																	
<u>撤 去</u>	<u>0.4 (0.4)</u>																	
<u>撤去（再利用）</u>	<u>0.5 (0.5)</u>																	
<u>移設（撤去・再設置）</u>	<u>0.2 (0.2)</u>																	
<u>諸雑費率</u>	<u>7</u>																	
		(新設)																

第1編 共通工 第9 市場単価

	改 正 後	現 行
誤	第9 (略)	第9 (略)

	改 正 後	現 行
正	第9 市場単価 市場単価方式により積算を行う工種は次のとおりである。 ただし、山林砂防工を適用する箇所には適用しない。 なお、地理的条件により、地元市町村役場（支所等を含む。）から施工現場までの片道に1時間を超える場合は、10%の割増補正を行うことができるものとする。ただし、時間的制約を受ける場合の補正係数が設定されている市場単価において、時間的制約を受ける場合の補正係数を適用する場合は、10%の割増補正を重複して適用しない。 また、施工規模による補正と時間的制約による補正が重複する場合は、施工規模のみによる補正とする。	第9 市場単価 市場単価方式により積算を行う工種は次のとおりである。 ただし、山林砂防工を適用する箇所には適用しない。 なお、地理的条件により、地元市町村役場（支所等を含む。）から施工現場までの片道に1時間を超える場合は、10%の割増補正を行うことができるものとする。ただし、時間的制約を受ける場合の補正係数が設定されている市場単価において、時間的制約を受ける場合の補正係数を適用する場合は、10%の割増補正を重複して適用しない。 また、施工規模による補正と時間的制約による補正が重複する場合は、施工規模のみによる補正とする。
	9－1～9－9 (略) 9－10 橋梁用伸縮継手装置設置工 9－11～9－14 (略)	9－1～9－9 (略) (新設) 9－10～9－13 (略)

第 1 編 共通工 第 10 土木工事標準単価		
	改 正 後	現 行
誤	第 10 （略）	第 10 （略）

	改 正 後	現 行
正	第 10 土木工事標準単価 土木工事標準単価方式により積算を行う工種は次のとおりである。 ただし、山林砂防工を適用する箇所には適用しない。 なお、地理的条件により、地元市町村役場（支所等を含む。）から施工現場までの片道に 1 時間を超える場合は、10%の割増補正を行うことができるものとする。ただし、土木工事標準単価における時間的制約を受ける（又は、著しく受ける）場合の単価を適用する場合は、10%の割増補正を重複して適用しない。 また、施工規模による補正と時間的制約による補正が重複する場合は、施工規模のみによる補正とする。 10－1 区画線工 10－2 排水構造物工 （1） U 型（落蓋型、鉄筋コンクリートベンチフリュームを含む。）水路 （2） 自由勾配側溝 （3） 蓋板 10－3 コンクリートブロック積工 10－4 構造物とりこわし工 10－5 橋梁塗装工 10－6 塗膜除去工 10－7 道路反射鏡設置工 10－8 侵食防止用植生マット工（養生マット工）	第 10 土木工事標準単価 土木工事標準単価方式により積算を行う工種は次のとおりである。 ただし、山林砂防工を適用する箇所には適用しない。 なお、地理的条件により、地元市町村役場（支所等を含む。）から施工現場までの片道に 1 時間を超える場合は、10%の割増補正を行うことができるものとする。ただし、土木工事標準単価における時間的制約を受ける（又は、著しく受ける）場合の単価を適用する場合は、10%の割増補正を重複して適用しない。 また、施工規模による補正と時間的制約による補正が重複する場合は、施工規模のみによる補正とする。 10－1 区画線工 10－2 排水構造物工 （1） U 型（落蓋型、鉄筋コンクリートベンチフリュームを含む。）水路 （2） 自由勾配側溝 （3） 蓋板 10－3 コンクリートブロック積工 10－4 構造物とりこわし工 （新設） （新設） （新設） （新設）

	改正後	現行
誤	1－1 （略）	1－1 （略）

正

改正後

1－1 機械土工

1・2 （略）

3 掘削法及び機種の選定（土砂）

（1） （略）

（2） 機種選定

山地治山土工の機械施工の機種選定に当たっては、各工事の作業内容、現地条件（工期、地耐力、傾斜度、施工に伴う障害等の有無、走行面の状況、騒音、振動規制、水質汚濁防止）、安全性、入手状況等を考慮の上、バックホウを標準として適用機種を選定する。

標準として積算に用いる機種は以下のとおりとするが、工事量、現場条件を勘案して最も適した機種を選定するものとする。

なお、現場条件により次の各表により難しい場合は、別途考慮する。

① バックホウによる掘削・積込作業の機種選定

表3. 1 掘削積込機械の適用機種の標準

作業の種類	作業内容		バックホウの規格
・地山の掘削積込み ・ルーズな状態の積込み	1箇所当たりの施工土量が100m3程度までの掘削・積込み・床掘、又は平均施工幅1m未満の床掘の場合		③小規模土工
	施工土量 10,000m3 未満	上記以外の場合で、狭隘で旋回範囲に制限がある場合	クローラ型・ 後方超小旋回型 ・超低騒音型 ・排出ガス対策型（ 2014 年規制 ） 山積 0.45 m3（平積 0.35m3）
		上記以外の場合	クローラ型・標準型・超低騒音型 ・排出ガス対策型（第3次基準値） 山積 0.8m3（平積 0.6m3）
	施工土量 10,000m3 以上の場合		別途考慮
岩石掘削 （機械）	平均施工幅 1m以上 2m未満又は狭隘で旋回範囲に制限がある場合	大型ブレイカ油圧式 600～800kg 級 （ベースマシン：バックホウ（クローラ型） 後方超小旋回型・超低騒音型 ・排出ガス対策型（ 2014 年規制 ） 山積 0.45m3（平積 0.35m3））	
	上記以外	大型ブレイカ油圧式 1,300kg 級 （ベースマシン：バックホウ（クローラ型） 超低騒音型 ・排出ガス対策型（第3次基準値） 山積 0.8m3（平積 0.6m3））	

（注） （略）

②・③ （略）

現行

1－1 機械土工

1・2 （略）

3 掘削法及び機種の選定（土砂）

（1） （略）

（2） 機種選定

山地治山土工の機械施工の機種選定に当たっては、各工事の作業内容、現地条件（工期、地耐力、傾斜度、施工に伴う障害等の有無、走行面の状況、騒音、振動規制、水質汚濁防止）、安全性、入手状況等を考慮の上、バックホウを標準として適用機種を選定する。

標準として積算に用いる機種は以下のとおりとするが、工事量、現場条件を勘案して最も適した機種を選定するものとする。

なお、現場条件により次の各表により難しい場合は、別途考慮する。

① バックホウによる掘削・積込作業の機種選定

表3. 1 掘削積込機械の適用機種の標準

作業の種類	作業内容		バックホウの規格
・地山の掘削積込み ・ルーズな状態の積込み	1箇所当たりの施工土量が100m3程度までの掘削・積込み・床掘、又は平均施工幅1m未満の床掘の場合		③小規模土工
	施工土量 10,000m3 未満	上記以外の場合で、狭隘で旋回範囲に制限がある場合	クローラ型・ 標準型 ・超低騒音型 ・排出ガス対策型（ 第3次基準値 ） 山積 0.45 m3（平積 0.35m3）
		上記以外の場合	クローラ型・標準型・超低騒音型 ・排出ガス対策型（第3次基準値） 山積 0.8m3（平積 0.6m3）
	施工土量 10,000m3 以上の場合		別途考慮
岩石掘削 （機械）	平均施工幅 1m以上 2m未満又は狭隘で旋回範囲に制限がある場合	大型ブレイカ油圧式 600～800kg 級 （ベースマシン：バックホウ（クローラ型） 後方超小旋回型・超低騒音型 ・排出ガス対策型（ 第3次基準値 ） 山積 0.45m3（平積 0.35m3））	
	上記以外	大型ブレイカ油圧式 1,300kg 級 （ベースマシン：バックホウ（クローラ型） 超低騒音型 ・排出ガス対策型（第3次基準値） 山積 0.8m3（平積 0.6m3））	

（注） （略）

②・③ （略）

4 施工歩掛

(1) バックホウ掘削（掘削・積込み、積込み）

バックホウ掘削による各作業の日当たり作業量は、次表を標準とする。

表4. 1 日当たり作業量

(1日当たり)

作業 種別	制限の 有無	山地治山 工区分	工種 区分	名称	規格	土質名	単位	数量					
								良好	普通	不良			
地山の掘 削・積込 み	あり	A	溪間工	バックホウ（ク ローラ型）運転	後方超小旋回型・ 超低騒音型・排出 ガス対策型（2014 年規制）山積 0.45 m ³ （平積 0.35 m ³ ）	砂・砂質土・粘 性土・礫質土	m ³	97	84	67			
						岩塊・玉石・軟 岩（Ⅰ）A	m ³	77	67	48			
			山腹工			砂・砂質土・粘 性土・礫質土	m ³	67	58	48			
						岩塊・玉石・軟 岩（Ⅰ）A	m ³	48	42	39			
		B	溪間工			砂・砂質土・粘 性土・礫質土	m ³	110	96	77			
						岩塊・玉石・軟 岩（Ⅰ）A	m ³	86	75	58			
			山腹工			砂・砂質土・粘 性土・礫質土	m ³	77	67	58			
						岩塊・玉石・軟 岩（Ⅰ）A	m ³	58	50	48			
		なし	(略)										
	ルーズな 状態の積 込み	あり	A			溪間工	バックホウ（ク ローラ型）運転	後方超小旋回型・ 超低騒音型・排出 ガス対策型（2014 年規制）山積 0.45 m ³ （平積 0.35 m ³ ）	砂・砂質土・粘 性土・礫質土	m ³	110	96	77
岩塊・玉石				m ³	86				75	58			
山腹工				破碎岩	m ³	67			58	39			
				砂・砂質土・粘 性土・礫質土	m ³	77			67	58			
B			山腹工	岩塊・玉石	m ³	58			50	48			
				破碎岩	m ³	39			34	28			
			溪間工	砂・砂質土・粘 性土・礫質土	m ³	120			104	86			
				岩塊・玉石	m ³	97			84	67			
			山腹工	破碎岩	m ³	77			67	48			
				砂・砂質土・粘 性土・礫質土	m ³	86			75	67			
				岩塊・玉石	m ³	67			58	58			
				破碎岩	m ³	48			42	39			
なし			(略)										

(注) (略)

(2) 片切掘削（人力併用機械掘削）（土砂）

① 機種の選定

機種、規格は、次のとおりとする。

表4. 2 機種の選定

作業内容	機種	規格	単位	数量
狭隘で旋回範囲に制限がある場合	バックホウ（クローラ型）	後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型（2014年規制）山積 0.45 m ³ （平積 0.35 m ³ ）	台	1
上記以外の場合	バックホウ（クローラ型）	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）山積 0.8 m ³ （平積 0.6 m ³ ）	台	1

4 施工歩掛

(1) バックホウ掘削（掘削・積込み、積込み）

バックホウ掘削による各作業の日当たり作業量は、次表を標準とする。

表4. 1 日当たり作業量

作業 種別	制限の 有無	山地治山 工区分	工種 区分	名称	規格	土質名	単位	(1日当たり)				
								良好	普通	不良		
地山の掘削・積込み	あり	A	溪間工	バックホウ（クローラ型）運転	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）山積 0.45 m ³ （平積 0.35 m ³ ）	砂・砂質土・粘性土・礫質土	m ³	97	84	67		
						岩塊・玉石・軟岩（Ⅰ）A	m ³	77	67	48		
			山腹工			砂・砂質土・粘性土・礫質土	m ³	67	58	48		
						岩塊・玉石・軟岩（Ⅰ）A	m ³	48	42	39		
		B	溪間工			砂・砂質土・粘性土・礫質土	m ³	110	96	77		
						岩塊・玉石・軟岩（Ⅰ）A	m ³	86	75	58		
			山腹工			砂・砂質土・粘性土・礫質土	m ³	77	67	58		
						岩塊・玉石・軟岩（Ⅰ）A	m ³	58	50	48		
		なし	(略)									
	ルーズな状態の積込み	あり	A			溪間工	バックホウ（クローラ型）運転	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）山積 0.45 m ³ （平積 0.35 m ³ ）	砂・砂質土・粘性土・礫質土	m ³	110	96
岩塊・玉石				m ³	86				75	58		
山腹工				破碎岩	m ³	67			58	39		
				砂・砂質土・粘性土・礫質土	m ³	77			67	58		
B			山腹工	岩塊・玉石	m ³	58			50	48		
				破碎岩	m ³	39			34	28		
			溪間工	砂・砂質土・粘性土・礫質土	m ³	120			104	86		
				岩塊・玉石	m ³	97			84	67		
			山腹工	破碎岩	m ³	77			67	48		
				砂・砂質土・粘性土・礫質土	m ³	86			75	67		
				岩塊・玉石	m ³	67			58	58		
				破碎岩	m ³	48			42	39		
なし			(略)									

(注) (略)

(2) 片切掘削（人力併用機械掘削）（土砂）

① 機種の選定

機種、規格は、次のとおりとする。

表4. 2 機種の選定

作業内容	機種	規格	単位	数量
狭隘で旋回範囲に制限がある場合	バックホウ（クローラ型）	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）山積 0.45 m ³ （平積 0.35 m ³ ）	台	1
上記以外の場合	バックホウ（クローラ型）	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）山積 0.8 m ³ （平積 0.6 m ³ ）	台	1

②日当たり作業量

片切掘削（人力併用機械掘削）の日当たり作業量は、次表を標準とする。

表4．3　日当たり作業量

(1日当たり)					
制限の有無	機種	規格	土質名	単位	数量
あり	バックホウ （クローラ型）	後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型（2014年規制）山積 0.45 m ³ （平積 0.35 m ³ ）	砂・砂質土・粘性土・礫質土	m ³	61
			岩塊・玉石・軟岩（I）A	m ³	45
なし	バックホウ （クローラ型）	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）山積 0.8 m ³ （平積 0.6 m ³ ）	砂・砂質土・粘性土・礫質土	m ³	110
			岩塊・玉石・軟岩（I）A	m ³	81

（注）　（略）

③　（略）

5　単価表

（1）バックホウ掘削（掘削・積込み、積込み）100 m³当たり単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ （クローラ型）運転	後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型（2014年規制）山積 0.45 m ³ （平積 0.35 m ³ ） 標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）山積 0.8 m ³ （平積 0.6 m ³ ）	日	100/D	表 3.1
諸雑費		式	1	
計				

（2）片切掘削（人力併用機械掘削）10 m³当たり単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
山林砂防工 （普通作業員）		人		表 4.4
バックホウ （クローラ型）運転	後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型（2014年規制）山積 0.45 m ³ （平積 0.35 m ³ ） 標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）山積 0.8 m ³ （平積 0.6 m ³ ）	日	10/D	表 4.3
諸雑費		式	1	
計				

（3）機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ （クローラ型） （掘削・積込み、積込み）	後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型（2014年規制）山積 0.45 m ³ （平積 0.35 m ³ ）	機－18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→58 機械損料数量→1.54
バックホウ （クローラ型） （掘削・積込み、積込み）	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）山積 0.8 m ³ （平積 0.6 m ³ ）	機－18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→94 機械損料数量→1.47
バックホウ （クローラ型） （片切掘削）	後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型（2014年規制）山積 0.45 m ³ （平積 0.35 m ³ ）	機－18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→58 機械損料数量→1.56
バックホウ （クローラ型） （片切掘削）	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）山積 0.8 m ³ （平積 0.6 m ³ ）	機－18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→94 機械損料数量→1.45

（略）

②日当たり作業量

片切掘削（人力併用機械掘削）の日当たり作業量は、次表を標準とする。

表4．3　日当たり作業量

(1日当たり)					
制限の有無	機種	規格	土質名	単位	数量
あり	バックホウ （クローラ型）	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）山積 0.45 m ³ （平積 0.35 m ³ ）	砂・砂質土・粘性土・礫質土	m ³	61
			岩塊・玉石・軟岩（I）A	m ³	45
なし	バックホウ （クローラ型）	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）山積 0.8 m ³ （平積 0.6 m ³ ）	砂・砂質土・粘性土・礫質土	m ³	110
			岩塊・玉石・軟岩（I）A	m ³	81

（注）　（略）

③　（略）

5　単価表

（1）バックホウ掘削（掘削・積込み、積込み）100 m³当たり単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ （クローラ型）運転	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）山積 0.45 m ³ （平積 0.35 m ³ ） 標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）山積 0.8 m ³ （平積 0.6 m ³ ）	日	100/D	表 3.1
諸雑費		式	1	
計				

（2）片切掘削（人力併用機械掘削）10 m³当たり単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
山林砂防工 （普通作業員）		人		表 4.4
バックホウ （クローラ型）運転	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）山積 0.45 m ³ （平積 0.35 m ³ ） 標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）山積 0.8 m ³ （平積 0.6 m ³ ）	日	10/D	表 4.3
諸雑費		式	1	
計				

（3）機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ （クローラ型） （掘削・積込み、積込み）	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）山積 0.45 m ³ （平積 0.35 m ³ ）	機－18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→58 機械損料数量→1.54
バックホウ （クローラ型） （掘削・積込み、積込み）	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）山積 0.8 m ³ （平積 0.6 m ³ ）	機－18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→94 機械損料数量→1.47
バックホウ （クローラ型） （片切掘削）	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）山積 0.45 m ³ （平積 0.35 m ³ ）	機－18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→58 機械損料数量→1.56
バックホウ （クローラ型） （片切掘削）	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）山積 0.8 m ³ （平積 0.6 m ³ ）	機－18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→94 機械損料数量→1.45

（略）

誤

改 正 後

3－1－1 人力法切工

(1) (略)

(2) 施工歩掛

人力法切歩掛

(10 m³当たり)

名 称	単位	数量		摘要
		法切前の斜面勾配		
		60 度未満	60 度以上	
山林砂防工	人	3.1	3.8	
諸雑費率	%	2		

備考

1 法切前の斜面勾配は、崩壊地外周部と法切工下端部を結んだ勾配とする。

2 斜面勾配を計測する断面は、法切工の比高差が最大の断面を用いるものとする。

3 法面整形や土砂の移動が必要な場合は、別途計上する。

4 諸雑費は、仮設ロープ損料等の費用であり、労務費に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

現 行

3－1－1 人力法切工

(1) (略)

(2) 施工歩掛

人力法切歩掛

(10 m³当たり)

名 称	単位	数量		摘要
		(新設)		
		(新設)	(新設)	
山林砂防工	人	3.3	(新設)	
諸雑費	%	1		

備考 (新設)
(新設)

1 法面整形や土砂の移動が必要な場合は、別途計上する。

2 諸雑費は、仮設ロープ損料等の費用であり、労務費に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

正

改 正 後

3－1－1 人力法切工

(1) (略)

(2) 施工歩掛

人力法切歩掛

(10 m³当たり)

名 称	単位	数量		摘要
		法切前の斜面勾配		
		60 度未満	60 度以上	
山林砂防工	人	3.1	3.8	
諸雑費率	%	2		

備考

1 法切前の斜面勾配は、崩壊地外周部と法切工下端部を結んだ勾配とする。

2 斜面勾配を計測する断面は、法切工の比高差が最大の断面を用いるものとする。

3 法面整形や土砂の移動が必要な場合は、別途計上する。

4 諸雑費は、仮設ロープ損料等の費用であり、労務費に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

現 行

3－1－1 人力法切工

(1) (略)

(2) 施工歩掛

人力法切歩掛

(10 m³当たり)

名 称	単位	数量		摘要
		(新設)		
		(新設)	(新設)	
山林砂防工	人	3.3	(新設)	
諸雑費	%	1		

備考 (新設)
(新設)

1 法面整形や土砂の移動が必要な場合は、別途計上する。

2 諸雑費は、仮設ロープ損料等の費用であり、労務費に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

	改正後	現行
誤	2) 作業飛行費 散布に要する飛行経費で、次式で算出して直接工事費に計上する。 A＝(T1×L+T2+n×T3+T4)×N1×1/60×M ここにA：作業飛行費(円) T1：現地ヘリポートと散布地間の1km当たりの往復飛行時間(分/km・回) T2：散布時間(分/回) T3：旋回時間(〃) T4：積込時間(〃) L：現地ヘリポートと散布地間の往復飛行距離(km) n：旋回回数 N1：散布回数(回)＝総散布量÷搭載量 M：1時間当たり作業飛行料金(円/時) なお、作業飛行時間は、次式による。 作業飛行時間(h)＝(T1×L+T2+n×T3+T4)×N1×1/60 備考 1・2 (略)	2) 作業飛行費(円) 散布に要する飛行経費で、次式で算出して直接工事費に計上する。 A＝(T1×L+T2+n×T3+T4)×N1×1/60×M ここにA：作業飛行費(円) T1：現地ヘリポートと散布地間の1km当たりの往復飛行時間(分/km・回) T2：散布時間(分/回) T3：旋回時間(〃) T4：積込時間(〃) L：現地ヘリポートと散布地間の往復飛行距離(km) n：旋回回数 N1：散布回数(回)＝総散布量÷搭載量 M：1時間当たり作業飛行料金(円/時) 備考 1・2 (略)

	改正後	現行
正	2) 作業飛行費 散布に要する飛行経費で、次式で算出して直接工事費に計上する。 A＝(T1×L+T2+n×T3+T4)×N1×1/60×M ここにA：作業飛行費(円) T1：現地ヘリポートと散布地間の1km当たりの飛行時間(分/km・回) T2：散布時間(分/回) T3：旋回時間(〃) T4：積込時間(〃) L：現地ヘリポートと散布地間の往復飛行距離(km) n：旋回回数 N1：散布回数(回)＝総散布量÷搭載量 M：1時間当たり作業飛行料金(円/時) なお、作業飛行時間は、次式による。 作業飛行時間(h)＝(T1×L+T2+n×T3+T4)×N1×1/60 備考 1・2 (略)	2) 作業飛行費(円) 散布に要する飛行経費で、次式で算出して直接工事費に計上する。 A＝(T1×L+T2+n×T3+T4)×N1×1/60×M ここにA：作業飛行費(円) T1：現地ヘリポートと散布地間の1km当たりの往復飛行時間(分/km・回) T2：散布時間(分/回) T3：旋回時間(〃) T4：積込時間(〃) L：現地ヘリポートと散布地間の往復飛行距離(km) n：旋回回数 N1：散布回数(回)＝総散布量÷搭載量 M：1時間当たり作業飛行料金(円/時) 備考 1・2 (略)

第2編 治山 第3 山腹工

3－6 航空実播工

(5) ヘリコプター飛行経費 3) 確認飛行費

	改正後	現行
誤	3) 確認飛行費 施工地を確認するための飛行経費で、次式によって算出し、共通仮設費に計上する。 B＝(T1×L＋T5)×N2×1/60×M ここにB：確認飛行費(円) T1：現地ヘリポートと散布地間の1km当たりの往復飛行時間(分/km・回) L：現地ヘリポートと散布地間の往復飛行距離(km) T5：1団地当たり確認飛行時間(0～10分) N2：確認回数(1団地当たり2回を標準とする。) M：1時間当たり作業飛行料金(円/時) なお、確認飛行時間は、次式による。 確認飛行時間(h)＝(T1×L＋T5)×N2×1/60	3) 確認飛行費 施工地を確認するための飛行経費で、次式によって算出し、共通仮設費に計上する。 B＝(T1×L＋T5)×N2×1/60×M ここにB：確認飛行費 T5：1団地当たり確認飛行時間(0～10分) N2：確認回数(1団地当たり2回を標準とする。)

	改正後	現行
正	3) 確認飛行費 施工地を確認するための飛行経費で、次式によって算出し、共通仮設費に計上する。 B＝(T1×L＋T5)×N2×1/60×M ここにB：確認飛行費(円) T1：現地ヘリポートと散布地間の1km当たりの飛行時間(分/km・回) L：現地ヘリポートと散布地間の往復飛行距離(km) T5：1団地当たり確認飛行時間(0～10分) N2：確認回数(1団地当たり2回を標準とする。) M：1時間当たり作業飛行料金(円/時) なお、確認飛行時間は、次式による。 確認飛行時間(h)＝(T1×L＋T5)×N2×1/60	3) 確認飛行費 施工地を確認するための飛行経費で、次式によって算出し、共通仮設費に計上する。 B＝(T1×L＋T5)×N2×1/60×M ここにB：確認飛行費 T5：1団地当たり確認飛行時間(0～10分) N2：確認回数(1団地当たり2回を標準とする。)

第2編 治山 第3 山腹工

3－6 航空実播工

(5) ヘリコプター飛行経費 6) 空輸費、作業飛行費、確認飛行費、夜間繫留ヘリポートと現地ヘリポート間の飛行費

	改正後	現行
誤	6) 空輸費、作業飛行費 空輸費、作業飛行費は、1時間当たりの経費(間接工事費等に相当する経費を含む。)を見積りにより計上する。 また、専用の散布バケットの経費については、必要な個数(2個以上)分を作業飛行費に含めるものとする。 なお、空輸費、作業飛行費の見積り時に、間接工事費等に相当する部分を分離して見積りをするのが困難なことから、間接工事費等を率計算により積算する際に、共通仮設費(率分)、現場管理費、一般管理費等の対象額からヘリコプター飛行経費を除外するものとする。	(新設)

	改正後	現行
正	6) 空輸費、作業飛行費、確認飛行費、夜間繫留ヘリポートと現地ヘリポート間の飛行費 空輸費、作業飛行費、確認飛行費、夜間繫留ヘリポートと現地ヘリポート間の飛行費は、1時間当たりの経費(間接工事費等に相当する経費を含む。)を見積りにより計上する。また、専用の散布バケットの経費については、必要な個数(2個以上)分を作業飛行費に含めるものとする。 なお、空輸費、作業飛行費、確認飛行費、夜間繫留ヘリポートと現地ヘリポート間の飛行費の見積り時に、間接工事費等に相当する部分を分離して見積りをするのが困難なことから、間接工事費等を率計算により積算する際に、共通仮設費(率分)、現場管理費、一般管理費等の対象額からヘリコプター飛行経費を除外するものとする。	(新設)

第3編 林道 第1 舗装工
1－2 砂利路盤工（機械） 4 作業歩掛 （5） 舗装面仕上げ

	改正後	現行																		
誤	<u>（5）</u> 舗装面仕上げ 舗装面仕上げの作業歩掛は、次表を標準とする。 <u>表4. 8</u> 施工歩掛 (100 m²当たり) <table><tr><th>機種</th><th>規格</th><th>舗装面仕上げ 機械運転日数(日)</th></tr><tr><td>振動ローラ <u>搭乗・コンバインド式 排出ガス対策型（第3次基準値）</u></td><td><u>3～4t</u></td><td><u>0.2</u></td></tr><tr><td>振動ローラ ハンドガイド式</td><td>0.5～0.6t</td><td>0.3</td></tr></table> (注) (略)	機種	規格	舗装面仕上げ 機械運転日数(日)	振動ローラ <u>搭乗・コンバインド式 排出ガス対策型（第3次基準値）</u>	<u>3～4t</u>	<u>0.2</u>	振動ローラ ハンドガイド式	0.5～0.6t	0.3	<u>（3）</u> 舗装面仕上げ 舗装面仕上げの作業歩掛は、次表を標準とする。 <u>表4. 4</u> 施工歩掛 (100 m²当たり) <table><tr><th>機種</th><th>規格</th><th>舗装面仕上げ 機械運転日数(日)</th></tr><tr><td>振動ローラ <u>排出ガス対策型 （第3次基準値）コンバインド型</u></td><td><u>3～4t</u></td><td><u>0.2</u></td></tr><tr><td>振動ローラ ハンドガイド式</td><td>0.5～0.6t</td><td>0.3</td></tr></table> (注) (略)	機種	規格	舗装面仕上げ 機械運転日数(日)	振動ローラ <u>排出ガス対策型 （第3次基準値）コンバインド型</u>	<u>3～4t</u>	<u>0.2</u>	振動ローラ ハンドガイド式	0.5～0.6t	0.3
機種	規格	舗装面仕上げ 機械運転日数(日)																		
振動ローラ <u>搭乗・コンバインド式 排出ガス対策型（第3次基準値）</u>	<u>3～4t</u>	<u>0.2</u>																		
振動ローラ ハンドガイド式	0.5～0.6t	0.3																		
機種	規格	舗装面仕上げ 機械運転日数(日)																		
振動ローラ <u>排出ガス対策型 （第3次基準値）コンバインド型</u>	<u>3～4t</u>	<u>0.2</u>																		
振動ローラ ハンドガイド式	0.5～0.6t	0.3																		

	改正後	現行															
正	<u>（5）</u> 舗装面仕上げ 舗装面仕上げの作業歩掛は、次表を標準とする。 <u>表4. 8</u> 施工歩掛 (100 m²当たり) <table><tr><th>機種</th><th>規格</th><th>舗装面仕上げ 機械運転日数(日)</th></tr><tr><td>振動ローラ ハンドガイド式</td><td>0.5～0.6t</td><td>0.3</td></tr></table> (注) (略)	機種	規格	舗装面仕上げ 機械運転日数(日)	振動ローラ ハンドガイド式	0.5～0.6t	0.3	<u>（3）</u> 舗装面仕上げ 舗装面仕上げの作業歩掛は、次表を標準とする。 <u>表4. 4</u> 施工歩掛 (100 m²当たり) <table><tr><th>機種</th><th>規格</th><th>舗装面仕上げ 機械運転日数(日)</th></tr><tr><td>振動ローラ <u>排出ガス対策型 （第3次基準値）コンバインド型</u></td><td><u>3～4t</u></td><td><u>0.2</u></td></tr><tr><td>振動ローラ ハンドガイド式</td><td>0.5～0.6t</td><td>0.3</td></tr></table> (注) (略)	機種	規格	舗装面仕上げ 機械運転日数(日)	振動ローラ <u>排出ガス対策型 （第3次基準値）コンバインド型</u>	<u>3～4t</u>	<u>0.2</u>	振動ローラ ハンドガイド式	0.5～0.6t	0.3
機種	規格	舗装面仕上げ 機械運転日数(日)															
振動ローラ ハンドガイド式	0.5～0.6t	0.3															
機種	規格	舗装面仕上げ 機械運転日数(日)															
振動ローラ <u>排出ガス対策型 （第3次基準値）コンバインド型</u>	<u>3～4t</u>	<u>0.2</u>															
振動ローラ ハンドガイド式	0.5～0.6t	0.3															

第3編 林道 第1 舗装工
1－3 コンクリート路面工 5 路盤紙敷設歩掛

改正後

5

路盤紙敷設歩掛

表 5. 1

施工歩掛

(100 m²当たり)

名 称	形状寸法	単位	数 量	摘 要
路 盤 紙		m ³	115.0	割増率 15%
普 通 作 業 員		人	0.4	

現行

(2)

路盤紙敷設歩掛

(100 m²当たり)

名 称	形状寸法	単位	数 量	摘 要
路 盤 紙		m ³	112.0	割増率 12%
普 通 作 業 員		人	0.3	

正

改正後

5

路盤紙敷設歩掛

表 5. 1

施工歩掛

(100 m²当たり)

名 称	形状寸法	単位	数 量	摘 要
路 盤 紙		m ³	115.0	割増率 15%
普 通 作 業 員		人	0.4	

現行

(2)

路盤紙敷設歩掛

(100 m²当たり)

名 称	形状寸法	単位	数 量	摘 要
路 盤 紙		m ³	112.0	割増率 12%
普 通 作 業 員		人	0.3	

誤

改正後

6 溶接金網敷設歩掛

表 6. 1 施工歩掛

(100 m²当たり)

名 称	形状寸法	単位	数 量	摘 要
溶 接 金 網		m ³	115.0	割増率 15%
普 通 作 業 員		人	2.3	
ス ペ ー サ		個		必要に応じて計上

備考 スペーサは必要量を別途計上する。

現 行

(3) 溶接金網敷設歩掛

(100 m²当たり)

名 称	形状寸法	単位	数 量	摘 要
溶 接 金 網		m ³	110.0	割増率 10%
普 通 作 業 員		人	2.0	
(新設)				

(新設)

正

改正後

6 溶接金網敷設歩掛

表6. 1 施工歩掛

(100 m²当たり)

名 称	形状寸法	単位	数 量	摘 要
溶 接 金 網		m ²	115.0	割増率 15%
普 通 作 業 員		人	2.3	
ス ペ ー サ		個		必要に応じて計上

備考 スペーサは必要量を別途計上する。

現 行

(3) 溶接金網敷設歩掛

(100 m²当たり)

名 称	形状寸法	単位	数 量	摘 要
溶 接 金 網		m ²	110.0	割増率 10%
普 通 作 業 員		人	2.0	
(新設)				

(新設)

	改 正 後	現 行
誤	3－1 （略）	3－1 （略）

正

3－1 鋼橋制作工
1・2 （略）
3 鋼橋制作費
（1）製作工数
①鋼橋の製作工数は、次式により算出するのを原則とする。
ア～キ （略）

表3． 1 橋梁形別標準工数

要素 形式	a1 (人／個)	a2 (人／個)	b1 (人／10m)	b2 (人／10m)	c (人／個)
単純鈑桁	1.48	0.32	0.94	0.39	0.43
連続鈑桁	1.47	0.23	0.78	0.37	0.38
箱桁	2.25	0.31	0.87	0.37	3.09
鋼床版鈑桁	1.24	0.25	0.92	0.62	4.17
鋼床版箱桁	3.78	0.33	1.03	0.53	6.24
トラス	0.56	0.33	0.75	0.32	0.79
アーチ	1.59	0.41	0.93	0.55	2.70
ラーメン	1.98	0.40	0.80	0.57	3.26
角型鋼橋脚	4.09	0.70	1.69	3.30	10.66
丸型鋼橋脚	6.76	0.57	0.32	0.86	8.20
角型アンカーフレーム	—	0.35	—	—	13.84
丸型アンカーフレーム	—	0.19	—	—	5.57

表3． 2～3． 7 （略）

② （略）
③ 工場製作の対象となる伸縮継手、高欄、橋梁用防護柵、検査路を発注する場合の製作工数は以下を標準とする。
また、補修取替など、単独で工場製作の対象となる上記付属物を発注する場合も同様とする。

表3． 13 伸縮継手標準工数

形式	標準工数	付属物図集
フィンガー形式	15.3	J－1
フィンガー形式 歩道部は重ね合わせ(踏板)形式	14.9	J－2

（略）

現 行

3－1 鋼橋制作工
1・2 （略）
3 鋼橋制作費
（1）製作工数
①鋼橋の製作工数は、次式により算出するのを原則とする。
ア～キ （略）

表3． 1 橋梁形別標準工数

要素 形式	a1 (人／個)	a2 (人／個)	b1 (人／10m)	b2 (人／10m)	c (人／個)
単純鈑桁	1.48	0.32	0.94	0.39	0.43
連続鈑桁	1.47	0.23	0.78	0.37	0.38
箱桁	2.25	0.31	0.87	0.37	3.09
鋼床版鈑桁	1.24	0.25	0.92	0.62	3.61
鋼床版箱桁	3.78	0.33	1.03	0.53	6.24
トラス	0.56	0.33	0.75	0.32	0.79
アーチ	1.59	0.41	0.93	0.55	2.55
ラーメン	1.98	0.40	0.80	0.57	3.26
角型鋼橋脚	4.09	0.70	1.69	3.30	10.66
丸型鋼橋脚	6.39	0.54	0.32	0.86	8.20
角型アンカーフレーム	—	0.35	—	—	13.84
丸型アンカーフレーム	—	0.19	—	—	5.57

表3． 2～3． 7 （略）

② （略）
③ 工場製作の対象となる伸縮継手、高欄、橋梁用防護柵、検査路を発注する場合の製作工数は以下を標準とする。
また、補修取替など、単独で工場製作の対象となる上記付属物を発注する場合も同様とする。

表3． 13 伸縮継手標準工数

形式	標準工数	付属物図集
フィンガー形式	11.2	J－1
フィンガー形式 歩道部は重ね合わせ(踏板)形式	12.2	J－2

（略）

	改 正 後	現 行
誤	4－1～4－4 （略）	4－1～4－4 （略）

正

改正後

4－1 切削オーバーレイ工

1 適用範囲

本資料は、路面切削機によるアスファルト舗装路面の切削作業（複数の路面切削機による並列切削作業を除く。）から概ね切削した舗装厚分を即日で急速施工する作業に適用する。

(1) 適用できる範囲

1) アスファルト混合物が購入方法の場合

2) 施工箇所が車道・路肩部の場合

3) 切削作業がストレートアスファルト、改質アスファルトの場合

(2) 適用できない範囲

1) アスファルト混合物がプラント方式の場合

2) 複数の路面切断機による並列切削作業を行う場合

3) 施工箇所が歩道部の場合

4) 排水性舗装（ポーラスアスファルト、開粒度アスファルト）の切削、又は特殊結合材（エポキシ樹脂）及び特殊骨材（エメリー）を含むアスファルト舗装の切削

5) 排水性舗装の舗設、又は橋面防水工を同時に施工する橋面舗装

6) シックリフト工法、Q R P 工法等特殊な工法の場合

7) 路面切削機を使用しない道路打換え工のための舗装版とりこわし

8) 平均切削深さが 12cm を超えるもの

2 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。

(注) （略）

3 機種の選定

切削オーバーレイ工に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

作業種別	機械名	規 格	単位	数量	摘要
路面切削～路面清掃 （略）	(略)				
合材敷均し	アスファルトフィニッシャ	ホイール型・排出ガス対策型（2014 年規制）舗装幅 2.3～6.0m	〃	1	
合材締固め	ロードローラ	マカダム・超低騒音型・排出ガス対策型（2014 年規制）運転質量 10 t 締固め幅 2.1m	〃	1	
	タイヤローラ	普通型・超低騒音型・排出ガス対策型（2014 年規制）運転質量 13～14 t	〃	1	

(削る。)

現行

4－1 切削オーバーレイ工

1 適用範囲

本資料は、路面切削機によるアスファルト舗装路面の切削作業（複数の路面切削機による並列切削作業を除く。）から概ね切削した舗装厚分を即日で急速施工する作業に適用する。

切削作業は、ストレートアスファルト、改質アスファルトとする。

アスファルト混合物の積算は購入方式を標準とし、プラント方式の場合は別途考慮する。

なお、以下の条件は適用範囲外とする。

・特殊結合材（エポキシ樹脂）及び特殊骨材（エメリー）を含むアスファルト舗装路面の切削作業

・平均切削深さが 12cm を超えるもの

・橋面防水工を同時に施工する場合の橋面塗装

・排水性塗装 ・シックリフト工法

・Q P R 工法等

・路面切削機を使用しない道路打換え工のための舗装版取壊し

2 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。

(注) （略）

3 機種の選定

切削オーバーレイ工に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

作業種別	機械名	規 格	単位	数量	摘要
路面切削～路面清掃 （略）	(略)				
合材敷均し	アスファルトフィニッシャ	ホイール型・排出ガス対策型（第3次基準値）舗装幅 2.3～6.0m	〃	1	
合材締固め	ロードローラ	マカダム・排出ガス対策型（第2次基準値）運転質量 10 t 締固め幅 2.1m	〃	1	
	タイヤローラ	普通型・排出ガス対策型（第2次基準値）運転質量 8～20 t	〃	1	

(注) タイヤローラは、賃料とする。

4 （略）

5 施工歩掛

（１） 日当たり施工量

切削オーバーレイ工の日当たり施工量は、次表を標準とする。

表 5． 1 日当たり施工量

(㎡／日)

平均切削深さ		7 cm 以下	7 cm を超え 12cm 以下
即日舗設	一層	732	640
	二層	—	503

(注) （略）

（２） （略）

（３） 舗装工材料

① （略）

表 5． 2 ロス率(K)

種 別	歩車道区分	ロス率
アスファルト混合物	車道及び路肩	+0.07
	(削る。)	(削る。)
	(削る。)	(削る。)

(注) （略）

② （略）

③ 瀝青材料の散布量は、次表による。

表 5． 4 瀝青材料の散布量 (一層 100 ㎡当たり)

種別	単位	数量
タックコート	ℓ	43
プライムコート	〃	126

(注) （略）

6 諸雑費

諸雑費は、切削作業に使用する雑器具（スコップ、ホウキ等）の費用、路面切削機のビットの損耗費、路面清掃車のブラシの損耗費、瀝青材料の散布費用、舗装用器具（レーキ、舗装養生テープ）及び加熱燃料等の費用、切削に伴う段差すりつけ設置及び撤去（労務を含む）に要する費用（必要な場合）であり、労務費と組合せ機械（路面切削機、路面清掃車、アスファルトフィニッシャ、ロードローラ及びタイヤローラ）の機械損料・賃料及び運転経費の合計額に下表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 6． 1 諸雑费率

(%)

平均切削深さ		7 cm 以下	7 cm を超え 12cm 以下
即日舗設	一層	16 (設置のみ 19、 設置撤去 20)	15 (設置のみ 18、 設置撤去 19)
	二層	—	14

(注) （略）

4 （略）

5 施工歩掛

（１） 日当たり施工量

切削オーバーレイ工の日当たり施工量は、次表を標準とする。

表 5． 1 日当たり施工量

(㎡／日)

平均切削深さ		7 cm 以下	7 cm を超え 12cm 以下
即日舗設	一層	910	800
	二層	—	630

(注) （略）

（２） （略）

（３） 舗装工材料

① （略）

表 5． 2 ロス率(K)

種 別	歩車道区分	ロス率
アスファルト混合物	車道及び路肩	+0.07
	歩道	+0.10
	アスカープ	+0.09

(注) （略）

② （略）

③ 瀝青材料の散布量は、次表による。

表 5． 4 瀝青材料の散布量 (100 ㎡当たり)

種別	単位	数量
タックコート	ℓ	43
プライムコート	〃	126

(注) （略）

6 諸雑費

諸雑費は、切削作業に使用する雑器具（スコップ、ホウキ等）の費用、路面切削機のビットの損耗費、路面清掃車のブラシの損耗費、瀝青材料の散布費用、舗装用器具及び加熱燃料等の費用、切削に伴う段差すりつけ設置及び撤去（積み込みまでの作業を含む。）に要する費用（必要な場合）であり、労務費と組合せ機械（路面切削機、路面清掃車、アスファルトフィニッシャ、ロードローラ及びタイヤローラ）の機械損料・賃料及び運転経費の合計額に下表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 6． 1 諸雑费率

(%)

平均切削深さ		7 cm 以下	7 cm を超え 12cm 以下
即日舗設	一層	14 (設置のみ 18、 設置撤去 19)	16 (設置のみ 20、 設置撤去 21)
	二層	—	15

(注) （略）

7 単価表

(1) 切削オーバーレイ 100 m²当たり単価表

名称	規 格	単位	数量	摘要
土木一般世話役～路面清掃車運転（略）	（略）			
アスファルト フィニッシャ運転	ホイール型・排出ガス対策型 （2014 年規制） 舗装幅 2.3～6.0m	〃	100／D	〃 機械損料
ロードローラ運転	マカダム・超低騒音型・排出ガス 対策型（2014 年規制） 運転質量 10 t 締固め幅 2.1m	〃	100／D	〃 機械損料
タイヤローラ運転	普通型・超低騒音型・排出ガス対 策型（2014 年規制） 運転質量 13～14 t	〃	100／D	〃 機械損料
諸雑費		式	1	表 6. 1
計				

（注）（略）

(2) 機械運転単価表

機械名	規 格	適用 単価表	指定事項	7 cm 以下	7 cm を超え 12cm 以下	
				即日 一層舗設	即日 一層舗設	即日 二層舗設
路面切削機	ホイール式・廃材積込装置付・ 排出ガス対策型（第 3 次基準 値）切削幅 2.0m×深さ 23cm	機－18	運転労務数量 燃料消費量 機械損料数量	1.00 215 1.28	1.00 240 1.28	1.00 207 1.28
路面清掃車	ブラシ・四輪式 路面切削工事用 ホッパ容量 1.5m ³	機－19	運転労務数量 燃料消費量 機械損料数量	1.00 39 1.15	1.00 43 1.28	1.00 38 1.15
アスファルト フィニッシャ	ホイール型・排出ガス対策型 （2014 年規制） 舗装幅 2.3～6.0m	機－18	運転労務数量 燃料消費量 機械損料数量	1.00 59 1.28	1.00 67 1.41	1.00 65 1.41
ロードローラ	マカダム・超低騒音型・排出ガ ス対策型（2014 年規制）運転質 量 10 t 締固め幅 2.1m	機－18	運転労務数量 燃料消費量 機械損料数量	1.00 29 1.28	1.00 29 1.28	1.00 32 1.28
タイヤローラ	普通型・超低騒音型・排出ガス 対策型（2014 年規制） 運転質量 13～14 t	機－18	運転労務数量 燃料消費量 機械損料数量	1.00 22 1.28	1.00 23 1.28	1.00 25 1.41

4－2～4－4 （略）

7 単価表

(1) 切削オーバーレイ 100 m²当たり単価表

名称	規 格	単位	数量	摘要
土木一般世話役～路面清掃車運転（略）	（略）			
アスファルト フィニッシャ運転	ホイール型・排出ガス対策型（第 3 次基準値） 舗装幅 2.3～6.0m	〃	100／D	〃 機械損料
ロードローラ運転	マカダム・排出ガス対策型（第 2 次基準値） 運転質量 10 t 締固め幅 2.1m	〃	100／D	〃 機械損料
タイヤローラ運転	普通型・排出ガス対策型（第 2 次 基準値） 運転質量 8～20 t	〃	100／D	〃 機械賃料
諸雑費		式	1	表 6. 1
計				

（注）（略）

(2) 機械運転単価表

機械名	規 格	適用 単価表	指定事項	7 cm 以下	7 cm を超え 12cm 以下	
				即日 一層舗設	即日 一層舗設	即日 二層舗設
路面切削機	ホイール式・廃材積込装置付・ 排出ガス対策型（第 3 次基準 値）切削幅 2.0m×深さ 23cm	機－18	運転労務数量 燃料消費量 機械損料数量	1.00 235 1.32	1.00 248 1.27	0.95 166 1.01
路面清掃車	ブラシ・四輪式 路面切削工事用 ホッパ容量 1.5m ³	機－19	運転労務数量 燃料消費量 機械損料数量	0.98 43 1.32	0.96 42 1.27	0.74 32 1.01
アスファルト フィニッシャ	ホイール型・排出ガス対策型 （第 3 次基準値） 舗装幅 2.3～6.0m	機－18	運転労務数量 燃料消費量 機械損料数量	1.00 48 1.40	1.00 53 1.19	1.00 42 1.23
ロードローラ	マカダム・排出ガス対策型（第 2 次基準値）運転質量 10 t 締固め幅 2.1m	機－18	運転労務数量 燃料消費量 機械損料数量	1.00 27 1.40	1.00 28 1.19	1.00 18 1.23
タイヤローラ	普通型・排出ガス対策型（第 2 次基準値） 運転質量 8～20 t	機－28	運転労務数量 燃料消費量 機械賃料数量	1.00 30 1.16	1.00 27 1.00	1.00 29 1.30

4－2～4－4 （略）

第3編 林道 第4 道路維持修繕
4－5 床版補強工 6 足場工
(1) ① 足場（板張防護を含む。）

	改 正 後	現 行
誤	① 足場（板張防護を含む。） 床版補強工における足場は、全面足場板（板張防護兼用）を標準とする。 桁高 1.5m以上の場合 足場工費＝（470 X＋0.153 y）× A 式 6-1 桁高 1.5m未満の場合 足場工費＝（425 X＋0.130 y）× A 式 6-2 X：主体足場を架設している供用月数 （供用月数は小数第1位とし、第2位を四捨五入とする。） A：足場工の必要橋面積（㎡） y：橋りょう特殊工単価（円/人）	① 足場（板張防護を含む。） 床版補強工における足場は、全面足場板（板張防護兼用）を標準とする。 桁高 1.5m以上の場合 足場工費＝（470 X＋0.153 y）× A 式 8-1 桁高 1.5m未満の場合 足場工費＝（425 X＋0.130 y）× A 式 8-2 X：主体足場を架設している供用月数 （供用月数は小数第1位とし、第2位を四捨五入とする。） A：足場工の必要橋面積（㎡） y：橋りょう特殊工単価（円/人）

	改 正 後	現 行
正	① 足場（板張防護を含む。） 床版補強工における足場は、全面足場板（板張防護兼用）を標準とする。 桁高 1.5m以上の場合 足場工費＝（565 X＋0.153 y）× A 式 6-1 桁高 1.5m未満の場合 足場工費＝（425 X＋0.130 y）× A 式 6-2 X：主体足場を架設している供用月数 （供用月数は小数第1位とし、第2位を四捨五入とする。） A：足場工の必要橋面積（㎡） y：橋りょう特殊工単価（円/人）	① 足場（板張防護を含む。） 床版補強工における足場は、全面足場板（板張防護兼用）を標準とする。 桁高 1.5m以上の場合 足場工費＝（470 X＋0.153 y）× A 式 8-1 桁高 1.5m未満の場合 足場工費＝（425 X＋0.130 y）× A 式 8-2 X：主体足場を架設している供用月数 （供用月数は小数第1位とし、第2位を四捨五入とする。） A：足場工の必要橋面積（㎡） y：橋りょう特殊工単価（円/人）

第4編 作業日当たり標準作業量
2. 作業日当たり標準作業量
工種名 土工 ⑨ 人力による築立（土羽）整形

	改 正 後		現 行	
誤	土工	⑨ 人力による築立（土羽）整形		(新設)
		作 業 名	作業日当たり標準作業量	
		人力による切土整形 (砂・砂質土、粘性土、礫質土、岩塊・玉石、軟岩（Ⅰ）A)	61m3/日	
		人力による切土整形 (軟岩（Ⅰ）B、軟岩（Ⅱ）、中硬岩、硬岩)	30m3/日	

	改 正 後	現 行																
正	<table><tr><th>工 種 名</th><th colspan="2">設 定 内 容</th></tr><tr><td rowspan="4">土工</td><td colspan="2">⑨ 人力による築立（土羽）整形</td></tr><tr><td>作 業 名</td><td>作業日当たり標準作業量</td></tr><tr><td>人力による切土整形 （砂・砂質土、粘性土、礫質土、岩塊・玉石、軟岩（Ⅰ）A）</td><td>61m2/日</td></tr><tr><td>人力による切土整形 （軟岩（Ⅰ）B、軟岩（Ⅱ）、中硬岩、硬岩）</td><td>30m2/日</td></tr></table>	工 種 名	設 定 内 容		土工	⑨ 人力による築立（土羽）整形		作 業 名	作業日当たり標準作業量	人力による切土整形 （砂・砂質土、粘性土、礫質土、岩塊・玉石、軟岩（Ⅰ）A）	61m2/日	人力による切土整形 （軟岩（Ⅰ）B、軟岩（Ⅱ）、中硬岩、硬岩）	30m2/日	<table><tr><th>工 種 名</th><th>設 定 内 容</th></tr><tr><td>土工</td><td>（新設）</td></tr></table>	工 種 名	設 定 内 容	土工	（新設）
	工 種 名	設 定 内 容																
	土工	⑨ 人力による築立（土羽）整形																
		作 業 名	作業日当たり標準作業量															
		人力による切土整形 （砂・砂質土、粘性土、礫質土、岩塊・玉石、軟岩（Ⅰ）A）	61m2/日															
人力による切土整形 （軟岩（Ⅰ）B、軟岩（Ⅱ）、中硬岩、硬岩）		30m2/日																
工 種 名	設 定 内 容																	
土工	（新設）																	

第4編 作業日当たり標準作業量

2. 作業日当たり標準作業量

工種名 土工 ⑩ 人力による築立（土羽）整形

	改 正 後			現 行		
誤						
	工 種 名	設 定 内 容		工 種 名	設 定 内 容	
	土工	⑩ 人力による築立（土羽）整形		土工	(新設)	
		作 業 名	作業日当たり標準作業量			
		人力による築立（土羽）整形	120m ³ /日			

	改正後	現行														
正	<table><tr><td>工 種 名</td><td colspan="2">設 定 内 容</td></tr><tr><td rowspan="3">土工</td><td colspan="2">⑩ 人力による築立（土羽）整形</td></tr><tr><td>作 業 名</td><td>作業日当たり標準作業量</td></tr><tr><td>人力による築立（土羽）整形</td><td>120㎡/日</td></tr></table>	工 種 名	設 定 内 容		土工	⑩ 人力による築立（土羽）整形		作 業 名	作業日当たり標準作業量	人力による築立（土羽）整形	120㎡/日	<table><tr><td>工 種 名</td><td>設 定 内 容</td></tr><tr><td>土工</td><td>(新設)</td></tr></table>	工 種 名	設 定 内 容	土工	(新設)
	工 種 名	設 定 内 容														
	土工	⑩ 人力による築立（土羽）整形														
		作 業 名	作業日当たり標準作業量													
		人力による築立（土羽）整形	120㎡/日													
工 種 名	設 定 内 容															
土工	(新設)															

第4編 作業日当たり標準作業量

2. 作業日当たり標準作業量

工種名 コンクリート工 ⑩ 張りコンクリート工 養生

誤

改正後			現行			
工種名	設定内容		工種名	設定内容		
	⑩ 張りコンクリート工 養生			(新設)		
	作業名	対象構造物				作業日当たり標準作業量
	養生	縦排水溝小段排水溝				179m2/日
		防草コンクリート				323m3/日

	改 正 後	現 行																								
正	<table><tr><td>工 種 名</td><td colspan="3">設 定 内 容</td></tr><tr><td rowspan="4">コンクリート 工</td><td colspan="3">⑩ 張りコンクリート工 養生</td></tr><tr><td>作業名</td><td>対象構造物</td><td>作業日当たり標準作業量</td></tr><tr><td rowspan="2">養生</td><td>縦排水溝小段排水溝</td><td>179m2/日</td></tr><tr><td>防草コンクリート</td><td>323m2/日</td></tr></table>	工 種 名	設 定 内 容			コンクリート 工	⑩ 張りコンクリート工 養生			作業名	対象構造物	作業日当たり標準作業量	養生	縦排水溝小段排水溝	179m2/日	防草コンクリート	323m2/日	<table><tr><td>工 種 名</td><td colspan="3">設 定 内 容</td></tr><tr><td>(新設)</td><td colspan="3"></td></tr></table>	工 種 名	設 定 内 容			(新設)			
	工 種 名	設 定 内 容																								
	コンクリート 工	⑩ 張りコンクリート工 養生																								
		作業名	対象構造物	作業日当たり標準作業量																						
		養生	縦排水溝小段排水溝	179m2/日																						
			防草コンクリート	323m2/日																						
工 種 名	設 定 内 容																									
(新設)																										

第4編 作業日当たり標準作業量

2. 作業日当たり標準作業量

工種名 共通工（1）（法面工） ㊸ 耳芝工

	改 正 後			現 行		
誤						
	工 種 名	設 定 内 容		工 種 名	設 定 内 容	
	共通工（1） （法面工等）	㊸ 耳芝工		共通工（1） （法面工等）	（新設）	
		作業名	作業日当たり標準作業量			
		耳芝工	53m2/日			

	改 正 後			現 行		
正						
	工 種 名	設 定 内 容		工 種 名	設 定 内 容	
	共通工（1） （法面工等）	③③ 耳芝工		共通工（1） （法面工等）	（新設）	
		作業名	作業日当たり標準作業量			
		耳芝工	53m/日			

第4編 作業日当たり標準作業量

2. 作業日当たり標準作業量

工種名 共通工（2）（土留工・擁壁工等） ㊹ 基礎・裏込・中詰（砕石・栗石）工（人力施工） 裏込（人力施工）

	改 正 後				現 行																																			
誤	<table><tr><td>工 種 名</td><td colspan="3">設 定 内 容</td></tr><tr><td colspan="4">⑪ 基礎・裏込・中詰（砕石・栗石）工（人力施工） 裏込（人力施工）</td></tr><tr><td rowspan="2">作業名</td><td colspan="2">かき込み・敷き均し</td><td>築立て・敷並べ</td></tr><tr><td>切込砂利・クラッシュン等</td><td>栗石・割栗石</td><td>栗石・割栗石</td></tr><tr><td rowspan="2">裏込</td><td colspan="2">(5.0m3/日)</td><td>(4.3m3/日)</td><td>1.8m3/日</td></tr><tr><td colspan="2">4.5m3/日</td><td>3.7m3/日</td><td></td></tr></table>				工 種 名	設 定 内 容			⑪ 基礎・裏込・中詰（砕石・栗石）工（人力施工） 裏込（人力施工）				作業名	かき込み・敷き均し		築立て・敷並べ	切込砂利・クラッシュン等	栗石・割栗石	栗石・割栗石	裏込	(5.0m3/日)		(4.3m3/日)	1.8m3/日	4.5m3/日		3.7m3/日		<table><tr><td>工 種 名</td><td colspan="3">設 定 内 容</td></tr><tr><td>共通工（２） （土留工・擁壁工等）</td><td colspan="3">（新設）</td></tr></table>				工 種 名	設 定 内 容			共通工（２） （土留工・擁壁工等）	（新設）		
					工 種 名	設 定 内 容																																		
					⑪ 基礎・裏込・中詰（砕石・栗石）工（人力施工） 裏込（人力施工）																																			
					作業名	かき込み・敷き均し		築立て・敷並べ																																
						切込砂利・クラッシュン等	栗石・割栗石	栗石・割栗石																																
					裏込	(5.0m3/日)		(4.3m3/日)	1.8m3/日																															
						4.5m3/日		3.7m3/日																																
工 種 名	設 定 内 容																																							
共通工（２） （土留工・擁壁工等）	（新設）																																							

	改 正 後	現 行																															
正	<table><tr><th>工 種 名</th><th colspan="4">設 定 内 容</th></tr><tr><td rowspan="7">共通工（２） （土留工・擁壁工等）</td><td colspan="4">⑪ 基礎・裏込・中詰（砕石・栗石）工（人力施工） 裏込（人力施工）</td></tr><tr><td rowspan="2">作業名</td><td colspan="2">かき込み・敷き均し</td><td>築立て・敷並べ</td></tr><tr><td colspan="2">切込砂利・クラッシュン等</td><td>栗石・割栗石</td></tr><tr><td rowspan="3">裏込</td><td colspan="2">(5.0m3/日)</td><td>1.8m3/日</td></tr><tr><td colspan="2">4.5m3/日</td><td>3.7m3/日</td></tr><tr><td colspan="3">(注) 材料の荷上げにトラッククレーン等を使用する場合は、（ ）書きを使用する。</td></tr></table>	工 種 名	設 定 内 容				共通工（２） （土留工・擁壁工等）	⑪ 基礎・裏込・中詰（砕石・栗石）工（人力施工） 裏込（人力施工）				作業名	かき込み・敷き均し		築立て・敷並べ	切込砂利・クラッシュン等		栗石・割栗石	裏込	(5.0m3/日)		1.8m3/日	4.5m3/日		3.7m3/日	(注) 材料の荷上げにトラッククレーン等を使用する場合は、（ ）書きを使用する。			<table><tr><th>工 種 名</th><th>設 定 内 容</th></tr><tr><td>共通工（２） （土留工・擁壁工等）</td><td>（新設）</td></tr></table>	工 種 名	設 定 内 容	共通工（２） （土留工・擁壁工等）	（新設）
	工 種 名	設 定 内 容																															
	共通工（２） （土留工・擁壁工等）	⑪ 基礎・裏込・中詰（砕石・栗石）工（人力施工） 裏込（人力施工）																															
		作業名	かき込み・敷き均し		築立て・敷並べ																												
			切込砂利・クラッシュン等		栗石・割栗石																												
		裏込	(5.0m3/日)		1.8m3/日																												
			4.5m3/日		3.7m3/日																												
			(注) 材料の荷上げにトラッククレーン等を使用する場合は、（ ）書きを使用する。																														
		工 種 名	設 定 内 容																														
	共通工（２） （土留工・擁壁工等）	（新設）																															

第4編 作業日当たり標準作業量

2. 作業日当たり標準作業量

工種名 共通工（2）（土留工・擁壁工等） 53 目地・止水板設置工 目地板設置

	改 正 後			現 行		
誤						
	工 種 名 共通工（２） （土留工・擁壁工等）	設 定 内 容		工 種 名 共通工（２） （土留工・擁壁工等）	設 定 内 容	
		53 目地・止水板設置工 目地板設置			(新設)	
		作業名	作業日当たり標準作業量			
		目地板設置	7.6m3/日			

	改 正 後			現 行		
正						
	工 種 名	設 定 内 容		工 種 名	設 定 内 容	
	共通工（２） （土留工・擁壁工等）	53 目地・止水板設置工 目地板設置		共通工（２） （土留工・擁壁工等）	(新設)	
		作業名	作業日当たり標準作業量			
		目地板設置	7.6m2/日			

第4編 作業日当たり標準作業量

2. 作業日当たり標準作業量

工種名 共通工（2）（土留工・擁壁工等） 54 目地・止水板設置工 止水板設置

	改 正 後			現 行		
誤						
	工 種 名	設 定 内 容		工 種 名	設 定 内 容	
	共通工（２） （土留工・擁壁工等）	54 目地・止水板設置工 止水板設置		共通工（２） （土留工・擁壁工等）	(新設)	
		作業名	作業日当たり標準作業量			
		止水板設置	13m3/日			

	改 正 後			現 行		
正		工 種 名 共通工（２） （土留工・擁壁工等）	設 定 内 容		工 種 名 共通工（２） （土留工・擁壁工等）	設 定 内 容 (新設)
			54 目地・止水板設置工 止水板設置			
			作業名	作業日当たり標準作業量		
			止水板設置	13m/日		

第4編 作業日当たり標準作業量

2. 作業日当たり標準作業量

工種名 基礎工 ② 木杭仕拵

誤

改正後

工 種 名	設 定 内 容							
基礎工	② 木杭仕拵							
	木杭仕拵 作業日当たり標準作業量							
	末口 (mm)	Φ90 以下	Φ90 を超え 120 以下	Φ120 を超え 150 以下	Φ150 を超え 180 以下	Φ180 を超え 210 以下	Φ210 を超え 240 以下	Φ240 を超え 270 以下
	杭長 (m)							
	1.2	34 本/日	28 本/日	23 本/日	—	—	—	—
	1.5	31 本/日	24 本/日	17 本/日	13 本/日	10 本/日	8.8 本/日	8.3 本/日
	1.8	30 本/日	16 本/日	14 本/日	11 本/日	9.0 本/日	7.6 本/日	6.9 本/日
	2.1	29 本/日	13 本/日	11 本/日	9.1 本/日	7.5 本/日	6.6 本/日	6.0 本/日
	2.4	—	—	8.9 本/日	7.5 本/日	6.3 本/日	5.5 本/日	5.0 本/日
	2.7	—	—	—	6.2 本/日	5.3 本/日	4.7 本/日	4.3 本/日
	3.0	—	—	—	5.3 本/日	4.6 本/日	4.1 本/日	3.8 本/日

現 行

工 種 名	設 定 内 容
基礎工	(新設)

正

	改正後																																																																																																						
正	<table><tr><th>工 種 名</th><th colspan="8">設 定 内 容</th></tr><tr><td rowspan="8">基礎工</td><td colspan="8">② 木杭仕拵</td></tr><tr><td colspan="8">木杭仕拵 作業日当たり標準作業量</td></tr><tr><td>末口 (mm)</td><td rowspan="2">Φ90 以下</td><td>Φ90 を超え 120 以下</td><td>Φ120 を超え 150 以下</td><td>Φ150 を超え 180 以下</td><td>Φ180 を超え 210 以下</td><td>Φ210 を超え 240 以下</td><td>Φ240 を超え 270 以下</td></tr><tr><td>杭長 (m)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1.5</td><td>34 本/日</td><td>28 本/日</td><td>23 本/日</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>3.0</td><td>31 本/日</td><td>24 本/日</td><td>17 本/日</td><td>13 本/日</td><td>10 本/日</td><td>8.8 本/日</td><td>8.3 本/日</td></tr><tr><td>4.0</td><td>30 本/日</td><td>16 本/日</td><td>14 本/日</td><td>11 本/日</td><td>9.0 本/日</td><td>7.6 本/日</td><td>6.9 本/日</td></tr><tr><td>5.0</td><td>29 本/日</td><td>13 本/日</td><td>11 本/日</td><td>9.1 本/日</td><td>7.5 本/日</td><td>6.6 本/日</td><td>6.0 本/日</td></tr><tr><td>6.0</td><td>—</td><td>—</td><td>8.9 本/日</td><td>7.5 本/日</td><td>6.3 本/日</td><td>5.5 本/日</td><td>5.0 本/日</td></tr><tr><td>7.0</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>6.2 本/日</td><td>5.3 本/日</td><td>4.7 本/日</td><td>4.3 本/日</td></tr><tr><td>8.0</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>5.3 本/日</td><td>4.6 本/日</td><td>4.1 本/日</td><td>3.8 本/日</td></tr></table>	工 種 名	設 定 内 容								基礎工	② 木杭仕拵								木杭仕拵 作業日当たり標準作業量								末口 (mm)	Φ90 以下	Φ90 を超え 120 以下	Φ120 を超え 150 以下	Φ150 を超え 180 以下	Φ180 を超え 210 以下	Φ210 を超え 240 以下	Φ240 を超え 270 以下	杭長 (m)							1.5	34 本/日	28 本/日	23 本/日	—	—	—	—	3.0	31 本/日	24 本/日	17 本/日	13 本/日	10 本/日	8.8 本/日	8.3 本/日	4.0	30 本/日	16 本/日	14 本/日	11 本/日	9.0 本/日	7.6 本/日	6.9 本/日	5.0	29 本/日	13 本/日	11 本/日	9.1 本/日	7.5 本/日	6.6 本/日	6.0 本/日	6.0	—	—	8.9 本/日	7.5 本/日	6.3 本/日	5.5 本/日	5.0 本/日	7.0	—	—	—	6.2 本/日	5.3 本/日	4.7 本/日	4.3 本/日	8.0	—	—	—	5.3 本/日	4.6 本/日	4.1 本/日	3.8 本/日	<table><tr><th>工 種 名</th><th>設 定 内 容</th></tr><tr><td>基礎工</td><td>(新設)</td></tr></table>	工 種 名	設 定 内 容	基礎工	(新設)
	工 種 名	設 定 内 容																																																																																																					
	基礎工	② 木杭仕拵																																																																																																					
		木杭仕拵 作業日当たり標準作業量																																																																																																					
		末口 (mm)	Φ90 以下	Φ90 を超え 120 以下	Φ120 を超え 150 以下	Φ150 を超え 180 以下	Φ180 を超え 210 以下	Φ210 を超え 240 以下	Φ240 を超え 270 以下																																																																																														
		杭長 (m)																																																																																																					
		1.5	34 本/日	28 本/日	23 本/日	—	—	—	—																																																																																														
		3.0	31 本/日	24 本/日	17 本/日	13 本/日	10 本/日	8.8 本/日	8.3 本/日																																																																																														
		4.0	30 本/日	16 本/日	14 本/日	11 本/日	9.0 本/日	7.6 本/日	6.9 本/日																																																																																														
		5.0	29 本/日	13 本/日	11 本/日	9.1 本/日	7.5 本/日	6.6 本/日	6.0 本/日																																																																																														
	6.0	—	—	8.9 本/日	7.5 本/日	6.3 本/日	5.5 本/日	5.0 本/日																																																																																															
7.0	—	—	—	6.2 本/日	5.3 本/日	4.7 本/日	4.3 本/日																																																																																																
8.0	—	—	—	5.3 本/日	4.6 本/日	4.1 本/日	3.8 本/日																																																																																																
工 種 名	設 定 内 容																																																																																																						
基礎工	(新設)																																																																																																						

第4編 作業日当たり標準作業量

2. 作業日当たり標準作業量

工種名 木材利用工 ⑪ 丸太伏工

	改 正 後			現 行		
誤						
	工 種 名	設 定 内 容		工 種 名	設 定 内 容	
	木材利用工	⑪ 丸太伏工		木材利用工	(新設)	
		作業名	作業日当たり標準作業量			
		丸太伏工	9.2m2/日			

	改 正 後			現 行		
正						
	工 種 名	設 定 内 容		工 種 名	設 定 内 容	
	木材利用工	⑪ 丸太伏工		木材利用工	(新設)	
		作業名	作業日当たり標準作業量			
		丸太伏工	9.2m/日			

第4編 作業日当たり標準作業量

2. 作業日当たり標準作業量

工種名 仮設工 ⑩ 雪寒仮囲い工

	改 正 後		現 行	
誤				
	工 種 名	設 定 内 容	工 種 名	設 定 内 容
	仮設工	⑨・⑩ (略)	仮設工	③・④ (略)

正

改 正 後			現 行			
正	工 種 名		設 定 内 容			
	仮設工		⑨ (略)			
			⑩ 雪寒仮囲い工 設置・撤去			
			タイプ		作業日当たり標準作業量	
					設置・撤去	
			Pタイプ	－	83m ² ／日	
			W・PWタイプ	枠組足場部	45m ² ／日	
				枠組足場以外	83m ² ／日	
			除雪工			
			区分	作業日当たり標準作業量		
			積雪深 5 cm 以上 30 cm 以下	29m ³ ／日		
	積雪深 30 cm 超	24m ³ ／日				
(注) 作業日当たり標準作業量は、普通作業員 1 名の場合。						

工 種 名		設 定 内 容			
仮設工		③ (略)			
		④ 雪寒仮囲い工 設置・撤去			
		タイプ		作業日当たり標準作業量	
				設置・撤去	
		Pタイプ	－	91m ² ／日	
		W・PWタイプ	枠組足場部	45m ² ／日	
			枠組足場以外	91m ² ／日	
		除雪工			
		作業日当たり標準作業量		24m ³ ／日	

第4編 作業日当たり標準作業量

2. 作業日当たり標準作業量

工種名 山地治山土工 ② 人力埋戻し工

	改 正 後					現 行																																							
誤	<table><tr><td>工 種 名</td><td colspan="4">設 定 内 容</td></tr><tr><td rowspan="5">山地治山土工</td><td colspan="4">② 人力埋戻し工</td></tr><tr><td>作業名</td><td>土質</td><td>締固めの有無</td><td>作業日当たり標準作業量</td></tr><tr><td rowspan="4">人力埋戻し工</td><td rowspan="2">土砂</td><td>有り</td><td>3.7m3/日</td></tr><tr><td>無し</td><td>4.2m3/日</td></tr><tr><td rowspan="2">岩塊・玉石</td><td>有り</td><td>3.5m3/日</td></tr><tr><td>無し</td><td>3.8m3/日</td></tr></table>					工 種 名	設 定 内 容				山地治山土工	② 人力埋戻し工				作業名	土質	締固めの有無	作業日当たり標準作業量	人力埋戻し工	土砂	有り	3.7m3/日	無し	4.2m3/日	岩塊・玉石	有り	3.5m3/日	無し	3.8m3/日	<table><tr><td>工 種 名</td><td colspan="4">設 定 内 容</td></tr><tr><td>山地治山土工</td><td colspan="4">(新設)</td></tr></table>					工 種 名	設 定 内 容				山地治山土工	(新設)			
	工 種 名	設 定 内 容																																											
	山地治山土工	② 人力埋戻し工																																											
		作業名	土質	締固めの有無	作業日当たり標準作業量																																								
		人力埋戻し工	土砂	有り	3.7m3/日																																								
				無し	4.2m3/日																																								
			岩塊・玉石	有り	3.5m3/日																																								
	無し			3.8m3/日																																									
工 種 名	設 定 内 容																																												
山地治山土工	(新設)																																												

	改 正 後					現 行																																
正	<table><tr><td>工 種 名</td><td colspan="4">設 定 内 容</td></tr><tr><td rowspan="3">山地治山土工</td><td colspan="4">② <u>人力埋戻工</u></td></tr><tr><td><u>作業名</u></td><td><u>土質</u></td><td><u>締固めの有無</u></td><td><u>作業日当たり標準作業量</u></td></tr><tr><td><u>人力埋戻工</u></td><td><u>土砂</u></td><td><u>有り</u></td><td><u>3.7m3/日</u></td></tr></table>					工 種 名	設 定 内 容				山地治山土工	② <u>人力埋戻工</u>				<u>作業名</u>	<u>土質</u>	<u>締固めの有無</u>	<u>作業日当たり標準作業量</u>	<u>人力埋戻工</u>	<u>土砂</u>	<u>有り</u>	<u>3.7m3/日</u>	<table><tr><td>工 種 名</td><td colspan="4">設 定 内 容</td></tr><tr><td>山地治山土工</td><td colspan="4">(新設)</td></tr></table>					工 種 名	設 定 内 容				山地治山土工	(新設)			
						工 種 名	設 定 内 容																															
						山地治山土工	② <u>人力埋戻工</u>																															
							<u>作業名</u>	<u>土質</u>	<u>締固めの有無</u>	<u>作業日当たり標準作業量</u>																												
							<u>人力埋戻工</u>	<u>土砂</u>	<u>有り</u>	<u>3.7m3/日</u>																												
工 種 名	設 定 内 容																																					
山地治山土工	(新設)																																					

第4編 作業日当たり標準作業量

2. 作業日当たり標準作業量

工種名 治山ダム工

	改 正 後		現 行	
誤				
	工 種 名	設 定 内 容	工 種 名	設 定 内 容
	治山ダム工	(略)	仮設工	(略)

正

改正後

工 種 名	設 定 内 容	
治山ダム工	①～⑬（略）	
	⑭ 残存型枠工（プレキャスト） 残存型枠工	
	作 業	作業日当たり標準作業量
	残存型枠	64m2／日
	残存化粧型枠	57m2／日
	⑮ （略）	

現行

工 種 名	設 定 内 容	
仮設工	①～⑬（略）	
	⑭ 残存型枠工（プレキャスト） 残存型枠工	
	作 業	作業日当たり標準作業量
	残存型枠	65m2／日
	残存化粧型枠	59m2／日
	⑮ （略）	